平成29年度

國學院大學

神道文化学部

神道文化学科

GUIDE BOOK

平成29年度

國學院大學

神道文化学部

神道文化学科

GUIDE BOOK

Ⅰ. 特色と概要 1

学生諸君へ 神道文化学部長 武田秀章 …… 1

□神道文化学部の四季 …… 2

□神道文化学部の行事 …… 4

●観月祭 …… 4

●成人加冠式 …… 6

●アイスブレイク …… 7

□教員紹介 …… 8

石井研士教授・井上順孝教授 …… 8

岡田莊司教授・黒崎浩行教授 …… 9

齊藤智朗教授・阪本是丸教授 …… 10

笹生 衛教授・武田秀章教授 …… 11

西岡和彦教授・ヘィヴンズ ノルマン教授 …… 12

松本久史教授・茂木 栄教授 …… 13

茂木貞純教授・遠藤 潤准教授 …… 14

小野和伸准教授・加瀬直弥准教授 …… 15

小林宣彦准教授・菅 浩二准教授 …… 16

藤本頼生准教授・星野光樹専任講師 …… 17

□資料室・修学相談室について …… 18

□オフィスアワーについて …… 18

Ⅱ. ディプロマ・ポリシー 19

□神社関係の奉職について …… 20

●奉職内定者に聞く …… 21

□神道研修事務課からのお知らせ …… 22

□就職について …… 24

●就職内定者に聞く …… 25

□各種講座について …… 26

Ⅲ. カリキュラム・ポリシー 27

□コースについて …… 28

□履修について …… 29

□専門教育科目一覧 …… 30

□神道文化学部のカリキュラム …… 32

□演習科目について …… 33

□履修モデルについて …… 34

●神職資格を取得する場合 …… 35

履修モデルA －神道の歴史（古代・中世）を学びたい学生－ …… 36

履修モデルB －神道の歴史（近世・近代）を学びたい学生－ …… 36

履修モデルC －神道の社会的実践を学びたい学生－ …… 37

●祭式カリキュラム …… 38

●明階総合課程について …… 39

●宗教文化士について …… 40

履修モデルD －宗教文化をひろく学びたい学生－ …… 41

履修モデルE －日本の伝統文化を学びたい学生－ …… 41

□奨学金制度 …… 42

□学部神社実習生制度 …… 42

Ⅳ.アドミッション・ポリシー 43

□神道文化学部の入学制度 …… 44

□オープンキャンパス …… 46

Ⅰ　特色と概要

学生諸君へ　八百万神、共咲！

神道文化学部長　武田秀章

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

神道文化学部は、本学「建学の精神」である神道精神を体して、「国際化時代にふさわしい、日本人らしい日本人」を育むことを目指しています。こうした「学びの仲間」として、私たちは皆さんを心から歓迎します。

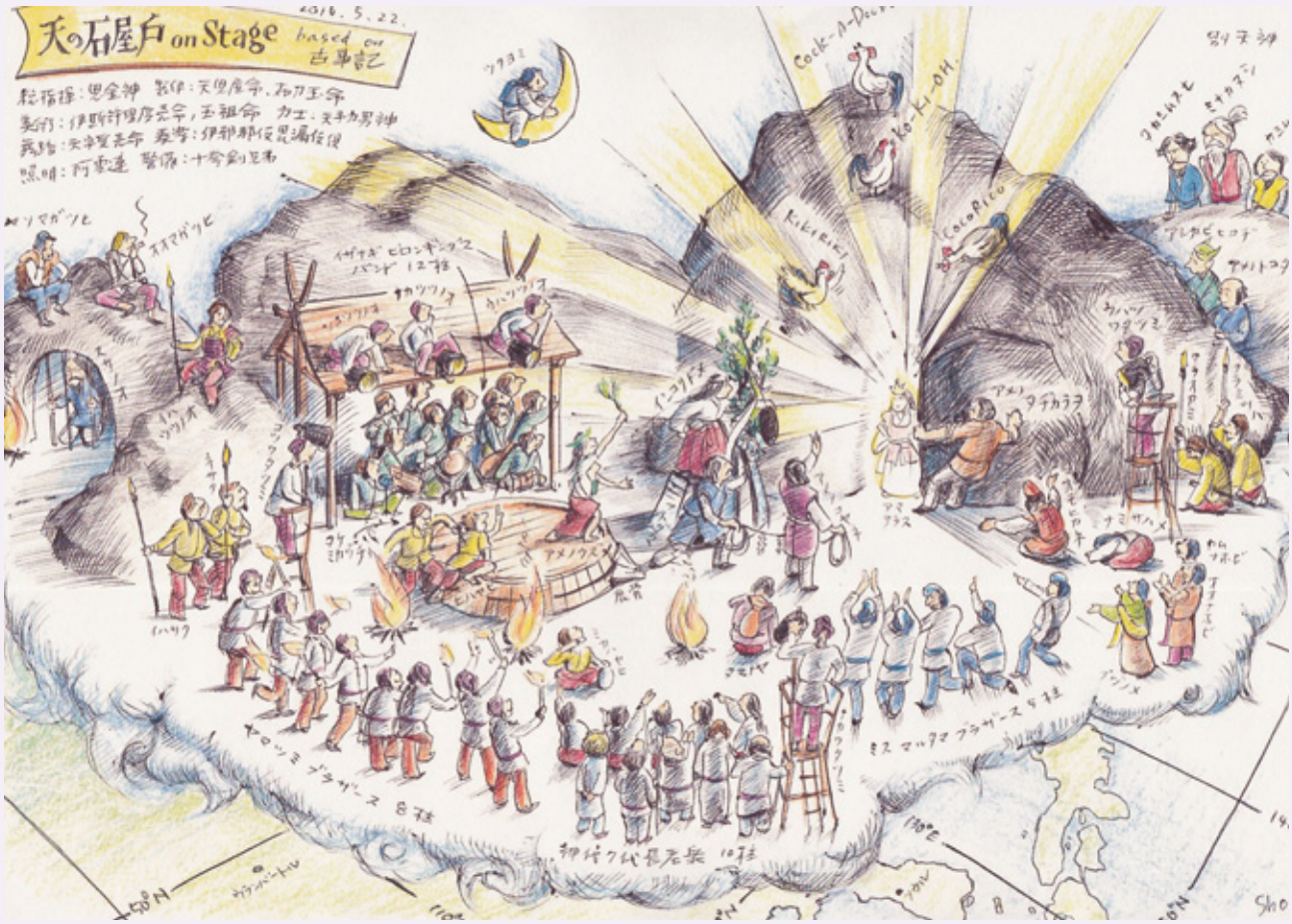
これからの４年間は、社会に出ていくための大切なステップです。それは同時に、将来への不安が渦巻き、さまざまな難問に直面する「産みの苦しみ」の時期でもあります。そうした時こそ、教職員はじめ多くのサポーターが力になってくれます。そのことを、どうか片時も忘れないでください。

誰の人生にも、人生を変える「出会い」があります。これからの４年間、皆さんの前には、さまざま出会いのチャンスが、豊かに広がっていくことでしょう。

国学者の本居宣長は、師の賀茂真淵と出会い、自らのライフワーク「『古事記』研究」に目覚めました。その一度限りの「出会い」が、江戸時代における国学の興隆に繋がり、国学を校名に冠する本学の建学に繋がり、ひいては本学における皆さんの学修にも、深いところで繋がってきているのかもしれないのです。

新入生の皆さんに、その『古事記』の「八百万神、共咲」という言葉を贈りたいと思います。日本神話の伝承によれば、天照大御神の石戸隠れによって、世界は闇に閉ざされました。この危機に際して、八百万の神々は、まず全員が集い、ついでそれぞれの得意分野を生かして「祭り」を行いました。その祭りのクライマックスで、八百万の神々は、声を合せて大笑いしたのです。その天地をとよもす哄笑を、『古事記』は「八百万神、共咲」と表現したのでした。

皆さんは、この神道文化学部に「学びの仲間」として集いました。皆さんが共に相携えて「学びの道」を歩んでいくことを、皆さん方の一人一人が「自分ならでは」の得意分野を生き生きと伸ばしていくことを、４年後には晴れて学業成就、「八百万神、共咲」の「喜びの輪」に連なることを、心から願ってやみません。



作　二宮昌世さん（神道文化学部卒業生、在学中に作成）

春

入学ガイダンス

アイスブレイク[⇒p.7]

田んぼ学校(田植え)

博物館ガイダンス(神道文化基礎演習)[⇒p.33]

夏

千度大祓

Kokugakuin Wasou Day

オープンキャンパス[⇒p.46]

観月祭(稽古)[⇒p.4･5]

國學 神道文化

秋

観月祭〔⇒p.4･5〕

神社関係者講話（神道文化演習）〔⇒p.33〕

田んぼ学校（稲刈り）

若木祭

冬

大掃除（祭式教室）

各種講座〔⇒p.26〕

成人加冠式〔⇒p.6〕

卒業式

学　部　の　四　季

神道文化学部の行事

神道文化学部が主催する行事を紹介します。

観月祭

観月祭は、供物を献じて十五夜の満月を鑑賞する「仲秋観月」に由来する行事で、平成22 年から例年10 月に行われています。7 回目を迎えた平成28 年10 月15 日の観月祭は、同年4 月に起きた熊本地震の復興祈願が籠められ、神道文化学部の学生が中心的な役割を果たしました。

管　絃　傾盃楽急・抜頭（けいばらくのきゅう・ばとう）

神楽舞　豊栄舞（とよさかまい）

神楽舞　浦安の舞（うらやすのまい）

舞　楽　振鉾（えんぶ）

舞　楽　右舞 延喜楽（えんぎらく）

舞　楽　左舞 賀殿急（かてんのきゅう）

観月祭の舞台裏

５月 稽古始め

7月～10月 合同稽古

９月 運営会議

当　日 行事始め

当　日 舞台設営

当　日 装束着装

当　日 会場管理

当　日 関係者一同

成人加冠式

奈良・平安時代の貴族社会の成人儀礼に由来し、平成20年から例年1月に行われています。平成29年には10回目を迎えました。

色鮮やかな装束に身を包むこの行事は、神道文化学部のみならず、他学部の学生やそのご家族の関心も集めています。

加冠之儀 男子の加冠

加冠之儀 女子の釵子（さいし）着装

加冠之儀 学部長祝辞

加冠之儀 新成人代表答辞

大學神殿奉告之儀 新成人代表誓詞奏上

祝賀之儀 祭祀舞

アイスブレイク

「大学生活に慣れるきっかけを作る」という目的のもと、神道文化学部では平成26 年から、新入生を対象にアイスブレイクを実施しています。

1 回目は入学後まもなく國學院大學で、2 回目は明治神宮で行い、仲間づくりのためのグループワークや、大学生活で必要なことがらのレクチャーをします。

1回目 自己紹介からのトーク

1回目 教員も参戦

2回目 正式参拝

2回目 地図作りで情報整理

2回目 境内でオリエンテーリング

2回目 グループごとに記念撮影

教員紹介

教授 石井 研士 *ISHII Kenji*

平成29年度担当科目 宗教学Ⅰ·Ⅱ　宗教学概論（専攻科）

◆出身地
東京都

◆専攻領域
宗教学　宗教社会学

◆最終学歴
東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻博士課程修了

◆学位
博士（宗教学）

◆所属学会
神道宗教学会　日本宗教学会　宗教法学会　明治聖徳記念学会

◆主な著書・論文
『銀座の神々―都市に溶け込む宗教』（新曜社、平成6年）
『戦後の社会変動と神社神道』（大明堂、平成10年）
『日本人の一年と一生』（春秋社、平成17年）
『結婚式』（NHK出版社、平成17年）
『増補改訂版 データブック 現代日本人の宗教』（新曜社、平成19年）
『テレビと宗教』（中央公論新社、平成20年）
『バラエティ化する宗教』編著（青弓社、平成22年）
『神道はどこへいくのか』編著（ぺりかん社、平成22年）
『神さまってホントにいるの？』（弘文堂、平成27年）
『プレステップ宗教学（第2版）』（弘文堂、平成28年）
『渋谷学』（弘文堂、平成29年）

山野を跋渉して新しい領域を捜そう

私の学問上の関心は、現代社会における宗教の意味もしくは役割です。この点を明らかにするために、都市化・過疎化と宗教、情報化と宗教という二つの具体的なテーマを設定しています。都市化・過疎化と情報化は現代社会を特徴づける大きな流れであり、都市化・過疎化と情報化に精神文化の中核をなす宗教がどのように関わっているかを理解することで、現代日本の文化の現状や、できれば将来像を垣間見たいと思っています。

先進諸国の一員といわれる日本社会自体にも宗教は深く根を下ろし、重要な意味を担っているようです。あたかもないかのごとく隠されている宗教の現代的な意味を考察するのが、私の研究目的です。

教授 井上 順孝 *INOUE Nobutaka*

平成29年度担当科目 宗教社会学Ⅰ·Ⅱ　宗教学演習Ⅰ·Ⅱ

◆出身地
鹿児島県日置市

◆専攻領域
宗教社会学　宗教文化教育　現代宗教論
グローバル化と宗教　映画と宗教　認知宗教学

◆最終学歴
東京大学大学院博士課程中退

◆学位
博士（宗教学）

◆所属学会
神道宗教学会　日本宗教学会　「宗教と社会」学会

◆主な著書・論文
『〈日本文化〉はどこにあるか』（編著、春秋社、2016年）
『世界の宗教は人間に何を禁じてきたか』（河出書房新社、2016年）
『宗教社会学を学ぶ人のために』（編著、世界思想社、2016年）
『〈オウム真理教〉を検証する』（編集責任、春秋社、2015年）
『要点解説90分でわかる！ビジネスマンのための「世界の宗教」超入門』（編著、東洋経済新報社、2013年）
『本当にわかる宗教学』（日本実業出版社、2011年）

広い視野から物事を考える力をつけよう！

高校まで鹿児島県で育つ。高校は県立川内高校で、弓道部に所属していた。昭和41年に東京大学入学後は、ずっと東京暮らし。学部時代は少林寺拳法部に所属。主将を務めた。関東大会個人戦で準優勝は、当時の東大では快挙。

博士課程を中退し東京大学文学部の助手を経て、昭和57年に國學院大學日本文化研究所にお世話になった。研究所では教派神道の研究、新宗教の調査、宗教教育の調査など、資料収集や調査、データ分析など充実した研究ができた。平成10年より宗教情報リサーチセンターのセンター長となり、宗教情報の収集と公開という作業にも関わっている。学生諸君には、大学時代に、知的な冒険にチャレンジし、いろいろな人間や状況の体験することを勧める。形式的に頭をさげたり、話を合わせたりするだけでなく、より深く他者への思いやりができる人間になって欲しい。

教授 岡田 莊司 OKADA Shoji

平成29年度担当科目 神道史学演習Ⅰ·Ⅱ 神道史（専攻科） 祭祀学（専攻科）
神道史学演習テーマ 「古代·中世の神社と神道」

◆出身地
神奈川県鎌倉市

◆専攻領域
古代・中世神道史 神社史

◆最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻修士課程修了

◆学位
博士（歴史学）

◆所属学会
神道宗教学会 神道史学会 他

◆主な著書・論文
『事典神社の歴史と祭り』〈共編著〉（吉川弘文館、平成25年）
『古代ヤマトと三輪山の神』〈共著〉（学生社、平成25年）
『日本神道史』〈編著〉（吉川弘文館、平成22年）
『古代出雲大社の祭儀と神殿』〈共著〉（学生社、平成17年）
『真福寺善本叢刊 伊勢神道』〈共著〉（臨川書店、平成17年）
『古代諸国神社神階制の研究』〈編著〉（岩田書院、平成14年）
『訳注日本史料 延喜式 上』〈共著〉（集英社、平成12年）
『平安時代の国家と祭祀』（続群書類従完成会、平成6年）
『大嘗の祭り』（学生社、平成2年）

慎みて怠ることなかれ

昭和23年（1948）、鎌倉の鶴岡八幡宮の東隣、畠山重忠の屋敷跡（現在は政所跡といわれている）に生まれ、鶴岡供僧坊跡で育つ。生活環境のすべてが中世の歴史空間であっただけに、早くから歴史に興味を抱く。次第に伝説上の人物の事跡に疑問をもつようになり、信憑性の高い記録を通した事実の解明を志向するようになり、『吾妻鏡』を好んで読んだ。真実を知るために源頼朝に何度会いたいと思ったことか。大学も卒業年次に近づいた頃から、従来の歴史研究に飽き足らず、信仰的世界をも描き出す新しい研究方向を模索しはじめる。あれから半世紀近く。神道史を核に古代・中世を対象とした歴史遊泳は、今も到達点を見出せないまま続行中である。自由な発想のもとで多角的な視点に立って、今後はゆっくりと歴史遊泳を楽しんでみたい。そこから神々の世界が抽出できるであろう。

教授 黒﨑 浩行 KUROSAKI Hiroyuki

平成29年度担当科目 宗教学Ⅰ·Ⅱ 神社ネットワーク論Ⅰ·Ⅱ 神道教化システム論 宗教学演習Ⅰ·Ⅱ 神道文化基礎演習 神社ネットワーク論Ⅰ（専攻科）
宗教学演習テーマ 「地域再生と宗教文化」

◆出身地
島根県松江市

◆専攻領域
宗教学 宗教と情報 現代神社と地域社会学

◆最終学歴
大正大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得

◆所属学会
日本宗教学会 「宗教と社会」学会 神道宗教学会

◆主な著書・論文
「東日本大震災におけるコミュニティ復興と神社」（『國學院雑誌』116巻11号、2015年11月）
『震災復興と宗教』（共編著、明石書店、2013年）
「宗教文化資源としての地域神社―そのコンテクストの現在」（国際宗教研究所編『現代宗教2011』秋山書店、2011年）

つながりのなかで学ぼう

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、平成28年4月14・16日に発生した熊本地震をはじめとして、近年、大きな災害が頻発している。多くの人たちが救援・支援のために現場へかけつけ、そこで失われた命の鎮魂と、復興に向けたさまざまな支えあいのつながりが生まれている。宗教者・宗教団体や地域の宗教文化は、そこでどのような役割、働きをなしうるか、が課題として浮かび上がっている。

また、それはひるがえって日常の地域社会における宗教の関わり方にも再考を促すものとなっている。

研究者として、またときに学生を引率する者のひとりとしてこうした現場に関わりながら、ともに学んでいくことを大切にしていきたいと考えている。

教授 齊藤 智朗 SAITO Tomoo

平成29年度担当科目 国学概論 I・II　神道史学 IIA・IIB　宗教学演習 I・II　神道文化基礎演習
宗教学演習テーマ 「神社信仰の展開に関する宗教学的考察」

◆出身地
東京都

◆専攻領域
宗教学　近代神道史　近代日本宗教史

◆最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了

◆学位
博士（宗教学）

◆所属学会
神道宗教学会　明治聖徳記念学会　日本宗教学会

◆主な著書・論文
『井上毅と宗教』（弘文堂刊、平成18年、単著）
『生田神社史』（生田神社編／国書刊行会刊、平成19年、共著）
『大社町史中巻』（大社町史編集委員会編／出雲市刊、平成20年、共著）
『日本神道史』（岡田莊司編／吉川弘文館刊、平成22年、共著）
『事典 神社の歴史と祭り』（岡田莊司・笹生衛編／吉川弘文館刊、平成25年、共著）
「『開知新聞』解説」（『復刻版 開知新聞』第一巻、不二出版刊、平成27年、単著）

悔いのない大学生活を送ろう

大学生時代は、自由な多くの時間があり、勉強に限らず、様々なことを学び、経験し、またチャレンジすることができる、一生においても貴重な期間である。ただし一方では、自由であるがゆえに怠惰にもなりやすく、多くの時間をムダに過ごしがちとなる。あるいは羽目をはずしすぎて、大きな後悔をする者もいるだろう。自由であることには同時に責任がともなうのであり、自らの言動を律して、有意義で充実した大学生活にできるかは、ひとえに自分の心掛け次第である。大学を卒業する時に、振り返っても悔いが残らないような、自分に誇りをもてる大学生活を送ってほしい。

教授 阪本 是丸 SAKAMOTO Koremaru

平成29年度担当科目 神道神学（専攻科）

◆出身地
熊本県

◆専攻領域
近世・近代神道史　国学

◆最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻修士課程修了

◆学位
博士（神道学）

◆所属学会
神道宗教学会　神道史学会　日本宗教学会　史学会　日本史研究会　法制史学会　他

◆主な著書・論文
『昭和前期の神道と社会』〈責任編集〉（弘文堂、平成28年）
『神道と学問』（神社新報社、平成27年）
『近世・近代神道論考』（弘文堂、平成19年）
『国家神道再考』〈編〉（弘文堂、平成18年）
『近代の神社神道』（弘文堂、平成17年）
『国家神道形成過程の研究』（岩波書店、平成6年）
『明治維新と国学者』（大明堂、平成5年）

自分の「本分」を尽くそう

古（いにしえ）は「おのもおのも祖神を斎祭り、程々にあるべき限りのわざをして、穏ひしく楽しく世を渡らふ」（本居宣長『直毘霊』）時代であったが、今の代は何かとせわしなく、常に「穏ひしく楽しく」世の中を渡ることはなかなか難しい。しかし、「祖神」を祀ることはもちろんのこと、各自が「程々にあるべき限りのわざ」をもって自らのつとめを果たすことは、己の信念次第で実践できよう。とりわけ、國學院大學の母体であった皇典講究所創立の告諭においても、「国体ヲ講明」し、「徳性ヲ涵養」することをもって「人生ノ本分ヲ尽ス」ことが「百世易フベカラザル典則」であると謳われており、建学の精神を体現する上でも、学生諸君においては各自の本分を尽くして、日々精励恪勤してほしい。

教授 笹生 衛 SASOU Mamoru

平成29年度担当科目 宗教考古学Ⅰ·Ⅱ 神道史学演習Ⅰ·Ⅱ 神道文化基礎演習 神道文化演習
神道史学演習テーマ 「考古学と祭祀·信仰·文献史料」

◆出身地
千葉県

◆専攻領域
日本考古学 日本宗教史

◆最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程前期修了

◆学位
博士(宗教学)

◆所属学会
日本考古学協会 祭祀考古学会 神道宗教学会

◆主な著書・論文
『神と死者の考古学』〈単著〉(吉川弘文館、平成28年)
『日本古代の祭祀考古学』〈単著〉(吉川弘文館、平成24年)
『前方後円墳の出現と日本国家の起源』〈共著〉(KADOKAWA、平成28年)
『事典 神社の歴史と祭り』〈共編〉(吉川弘文館、平成25年)
『亀卜』〈共著〉(臨川書店、平成18年)
『神仏と村景観の考古学』〈単著〉(弘文堂、平成17年)
『平安時代の神社と祭祀』〈共著〉(国書刊行会、昭和61年)

元気に楽しく!

昭和36年、千葉県生まれ、代々続く農家で育ちました。國學院大學文学部神道学科から大学院へ。その後、千葉県教育庁に就職。埋蔵文化財の発掘調査と保護行政、青少年教育や県立博物館の学芸員、指定文化財の保護行政も担当し現在に至っています。

私は、古代·中世の宗教·信仰を考古学の視点から分析し、その実態を明らかにしようという研究をおこなっており、遺跡·遺物の考古資料から神仏への信仰を、かつての環境·景観の中で具体的に復元することを目指しています。それは、日本文化を考える上で不可欠な要素であり、新たな日本宗教史、神道史を描くことにもつながると信じています。日本文化や神道の歴史を、新たな視点から一緒に考えていきましょう。

教授 武田 秀章 TAKEDA Hideaki

平成29年度担当科目 古典講読Ⅰ 神道史学演習Ⅰ·Ⅱ 神道古典(専攻科)
神道史学演習テーマ 「神道古典と国学」

◆出身地
神奈川県鎌倉市

◆専攻領域
近世・近代神道史 国学史 神道古典

◆最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

◆学位
博士(神道学)

◆所属学会
神道宗教学会 明治聖徳記念学会

◆主な著書・論文
『日本型政教関係の誕生』(共著、第一書房、昭和62年)
『維新期天皇祭祀の研究』(大明堂、平成8年)
『霊魂・慰霊・顕彰―死者への記憶装置―』(共著、錦正社、平成22年)
『モノと心に学ぶ伝統の知恵と実践』(共著、國學院大學、平成24年)

内なる芽を豊かに結実させてゆきましょう

鶴岡八幡宮のお膝元·鎌倉で生まれました。國學院で神道を学んだのち、神社新報社に就職し、ついで神社本庁に転出しました。本学に移ったのは、平成八年のことです。このように、神社·神道づくめの人生なので、ものごころついて以来、「神様とは何か」「祭りとは何か」「神道とは何か」という問いを考え続けてきました。

神道は、「天地初発」(『古事記』)以来、連綿と蓄積されてきた日本人の生命記憶の総体です。神道を学ぶということは、この無限の生命記憶から、生きる力を汲み上げてゆくということにほかなりません。かけがえのない「内なる芽」を、生涯かけて大切に育み、豊かに結実させてゆきましょう。健闘を祈ります。

教授 西岡 和彦 NISHIOKA Kazuhiko

平成29年度担当科目 （派遣研究のため担当なし）

◆出身地
兵庫県

◆専攻領域
神道思想史　神道神学

◆最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

◆学位
博士（神道学）

◆所属学会
神道宗教学会　神道史学会　日本思想史学会　日本宗教学会

◆主な著書・論文
『直毘霊を読む』（右文書院、平成13年、共著）
『近世出雲大社の基礎的研究』（大明堂、平成14年、単著）
『生田神社史』（国書刊行会、平成19年、共著）
『大社町史　中巻・年表』（出雲市、平成20年、共著）
『日本神道史』（吉川弘文館、平成22年、共著）
『出雲大社の寛文造営について―大社御造営日記の研究―』（島根県古代文化センター、平成25年、共著）
『出雲大社の造営遷宮と地域社会　下』（今井出版、平成27年、共著）
ほか

新入生のみなさんへ

神道を学ぶ者はきわめて少ない。みなさんは貴重な存在である。だからこそ、自身の生き方を大切にして欲しい。神道学は日本の神さまを調べるだけで無く、神習うことを必要とする。神さまの慈愛を受け止める感性を身につけ、それに感謝し、敬愛を以て各自の大切な使命を遂行するのが、いわゆる神道人である。神道人とはなんと誇らしい響きであろう。だが、その誇りを確証しなければ、単なる空威張りである。だからこそ、神道を学ばねばならない。だが、自力でその確証が掴めるまでには、どうしても指導が必要である。それに応じるのが、本学部の使命なのである。

教授 ヘィヴンズ ノルマン Norman HAVENS

平成29年度担当科目 世界宗教文化論 I・II　EnglishII（神道英語 I・II）　Japan Studies　宗教学演習 I・II　世界宗教文化論（専攻科）
宗教学演習テーマ 「世界の宗教における諸問題」

◆出身地
アメリカ合衆国オレゴン州ポートランド市

◆専攻領域
宗教学　日本宗教史

◆最終学歴
プリンストン大学大学院宗教学部宗教史学専攻博士課程単位取得

◆所属学会
神道宗教学会　American Academy of Religion, Association for Asian Studies

◆主な著書・論文
「トランプ時代におけるアメリカの多文化主義」（古沢広祐他編、『多文化世界の可能性』　共存学４、弘文堂、2017）
「文化多様性と共存の行方－欧米の動向をふまえて」（古沢広祐他編、『共存学』、弘文堂、2012）
"Shinto" [神道]（Paul L. Swanson & Clark Chilson編、The Nanzan Guide to Japanese Religions [日本宗教の南山ガイドブック]、南山宗教文化研究所、2005）
「神道の自然観：そのレトリック・現実・関連性」（『神道とエコロジー』、神社本庁、2000）

大学の4年間を無駄にしないで！

大学というものは、多くの人にとって若き大人として始めて親から「自由」となる時ではあるが、同時に広き世界に対する関心も一番ダイナミックに涌く時でもある。その貴重な知的関心や好奇心を「遊び」によって無駄にしてしまうのは本当にもったいないと思う。なるべく講師たちにチャレンジして、「どうして?」という健康的懐疑心を忘れることなく勉強にがんばってほしい。

ところで、最近の中年自営業者の調査によると、20代の自分に対するもっとも後悔していることは、「もっと英語を勉強すればよかった」ということだそうだ。これからのグローバル化社会において、第二の言語ができることはますます大切になる。

教授 松本 久史 *MATSUMOTO Hisashi*

平成29年度担当科目　神道概論　国学概論Ⅰ･Ⅱ　古典講読ⅢA･ⅢB　神道学演習Ⅰ･Ⅱ　神道概論（専攻科）
神道学演習テーマ　「近世･近代の神道における神観念の構造―祖霊･人霊･神霊―」

◆出身地
栃木県宇都宮市

◆専攻領域
国学史　神道史

◆最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

◆学位
博士（神道学）

◆所属学会
神道宗教学会　日本宗教学会　明治聖徳記念学会　他

◆主な著書・論文
『荷田春満の国学と神道史』（弘文堂、平成17年）
新編荷田春満全集編集委員会編『新編荷田春満全集』第１・３・12巻（校注）（おうふう、平成16・17・22年）
「国学者の霊魂観　その思想と実践―荷田派を中心に―」（『國學院大學研究開発推進機構紀要』第1号、平成21年3月）
「荷田派の延喜式詞研究」（『朱』第58号、平成27年2月）
『神話のおへそ　『古語拾遺』編』（執筆）（扶桑社、平成27年）

基礎を大事に、そして目標をしっかりと！

平成14年に本学の日本文化研究所助手を拝命し、21年度まで日本文化研究所・研究開発推進センターに所属し、22年度からは学部教員。近世の国学を中心とした神道・国学史を研究テーマにしています。神道を学ぶためには、幅広い知識が必要になります。特に1、2年生の間には、様々なことに関心を持ち、しっかりとした基礎教養を身につけてください。そのためのサポートをしっかりとしたいと思っています。その上で、3、4年生の時に、オンリーワンの得意分野を作ってください。世の中がどう変動しようとも、流されず、しっかりとした自分の根拠を持てるよう、勉強は勿論のこと、部活やサークル活動、神社奉仕等の社会活動にも励んでほしいと思います。

教授 茂木 栄 *MOGI Sakae*

平成29年度担当科目　日本宗教文化論Ⅰ･Ⅱ　日本の基層文化（民俗宗教論）　宗教学演習Ⅰ･Ⅱ　神道文化演習　日本宗教文化論（専攻科）
宗教学演習テーマ　「江戸時代の民俗調査報告を読む」

◆出身地
埼玉県旧大宮市

◆専攻領域
民俗学　民俗芸能学　祭祀研究　社叢学

◆最終学歴
成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻博士課程後期単位取得

◆所属学会
神道宗教学会　日本民俗学会　民俗芸能学会

◆主な著書・論文
『北海道神社明細帳の分析』（本学日本文化研究所、平成9年）
『まつり伝承論』（大明堂、平成5年）
『大和の伝承文化』上巻・下巻〈共著〉（名著出版、昭和62年・昭和63年）
「山・社・海をつなぐ神の道」（『共存学文化社会の多様性』國學院大學研究開発推進センター編、弘文堂、平成24年）
ハイヴィジョンDVD作品多数
（國學院大學博物館「四季の祭」コーナー25作品〈短編編集〉：常時鑑賞可）

かけがえのない自分史を編んでいこう！

私は父の仕事の関係で静岡県の山奥、天龍川中流域の佐久間町で育つ。東京から行った社員だけで集落を形成していて、クラブやプール、テニスコートなどがある山の中の文化生活だった。野山を駆け回って身体だけは強くなる。小学校5年の時に都会（川崎）の学校に転校。転校初日に相撲に無理矢理誘われ、山で鍛えた筋肉のお陰で、クラスで一番強いと称する子を何度も転がして、クラスの子達を驚かせた。その時思ったことは、「山の子達と都会の子達とでは、組んだ時の身体の強さが全く違うなあ」ということ。その後また転校し高校時代は赤十字の奉仕活動にうつつを抜かす毎日。大学時代から学生映画を作っていたので、その技術を生かして修論に映画を付けた。今でも映像制作は重要な私の活動分野となっている。学生諸君には肯定的な物語を編む努力をしてもらいたい。健闘を祈ります。

教授 茂木 貞純 *MOTEGI Sadasumi*

平成29年度担当科目 神社祭式概論 I·II　神社祭祀演習IIIB　祭祀学特殊講義　神社祭式特論　祭祀演習 I·II·III（専攻科）　神社祭式概論（専攻科）

◆出身地
埼玉県熊谷市

◆専攻領域
神道祭祀学　戦後神道史

◆最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

◆所属学会
神道宗教学会　古事記学会　禮典研究会

◆主な著書・論文
『遷宮をめぐる歴史―全六十二回の伊勢神宮式年遷宮を語る』（共著、明成社、平成24年）
『知識ゼロからの伊勢神宮入門』（幻冬舎、平成24年）
『新神社祭式行事作法教本』（共編著、戎光祥出版、平成23年）
『日本語と神道』（講談社、平成15年）
『神道と祭りの伝統』（神社新報社、平成13年）

心身共に健康で見聞を広めよう

昭和26年、埼玉県熊谷市の社家に生まれる。地元の高校を卒業し、國學院大學に学び神職資格を取得した。昭和55年から、神社本庁調査部に勤務、祭礼調査や祭式研修の企画実施の仕事を皮切りに、25年間様々な部署で仕事をさせて頂いた。常に、全国の神社を意識しなければならず、大変よい経験であった。多くの先輩、友人、神職、総代の方々の知遇を得ることができ、感謝の心でいっぱいだ。

平成17年4月から、専任教員の一員として、母校で教鞭を執ることになった。充分な研究実績があるわけではないが、優れた神職を養成できるよう、努力したいと願っている。

基礎体力はしっかりとつけ、たくさんの本を読もう。友達と、よく遊べ。けして、幼稚なことはするな。見聞を広め、世間を知ろう。目標は、なるべく高く。本物から学ぼう。

准教授 遠藤 潤 *ENDO Jun*

平成29年度担当科目 神道思想史学 I·II　宗教学演習 I·II　神道文化基礎演習　神道文化演習　神道思想史学（専攻科）
宗教学演習テーマ 「非日常的な世界とそこに存在するものを考える―宗教研究の視点から―」

◆出身地
兵庫県生まれ、神奈川県育ち

◆専攻領域
宗教学　日本宗教史　神道・国学思想

◆最終学歴
東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻博士課程単位取得

◆学位
博士（宗教学）

◆所属学会
神道宗教学会　日本宗教学会　日本思想史学会

◆主な著書・論文
『平田国学と近世社会』（ぺりかん社、2008年）
「教祖論・教団論からみた平田国学―信仰・学問と組織―」（幡鎌一弘編『語られた教祖』、法藏館、2012年）
「明治初期の北海道開拓と札幌神社の創建・展開」（北海道神宮・國學院大學研究開発推進センター編『北海道神宮研究論叢』弘文堂、2014年）
「平田国学と幽冥思想―近世神道における死の主題化―」（島薗進ほか編『日本人と宗教３　生と死』、春秋社、2015年）

テキストを丁寧に読もう

宗教学や神道学に限らず、人文学のどの学問でも一番の基礎となるのは、原典であれ論文であれ、文献を正確に理解しようと努める姿勢です。学生のみなさんは日々忙しく感じているかもしれませんが、学生生活を離れてみれば、学生時代はかなり時間の余裕がある時期であったことがわかります。せっかくのこの時期に、ものをていねいに読んで、じっくり考えて下さい。ゆっくりやってできないことは、急いでやってもなかなかうまくできないのではないでしょうか。焦ることもあるでしょうが、むしろ「時間をかけられるのは今だけ」と覚悟を決めて下さい。（よい意味で）慣れてきたら、スピードも自然に上がってくることでしょう。

准教授 小野 和伸 ONO Kazunobu

平成29年度担当科目 神社祭祀演習 I・II・IIIB　神社祭式同行事作法II（別科）

◆出身地
神奈川県横浜市

◆専攻領域
神道祭祀　神社祭式

◆最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

◆所属学会
神道宗教学会　明治聖徳記念学会　禮典研究會

◆主な著書・論文
「地鎮祭の研究」（『禮典』第23号）
「昭和十七年改正「神社祭式行事作法」に関する一考察―玉串奉奠から拝礼へ―」（『禮典』第24号）
「皇典講究所の神葬祭研究―神職著用の鈍色の装束を中心に―」（『神道宗教』第173号）
「儒教のまつり「釈奠大祭」」（『まほら』第68号）
『神葬祭の栞』（神奈川県神社庁編）〈共著〉

〝祭祀の厳修〟が神職の責務

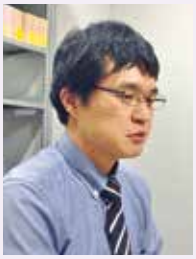
祖父の小野輝雄と父の小野和輝が、永く國學院大學及び神社本庁に於いて祭式の指導を担った関係で、神職としてあるべき姿を幼少の頃より自然と感じ取ったのか、自分は抵抗なくこの道へ進むことが出来たように思います。

神道学科（当時）在学中は瑞玉會で祭式・雅楽や祝詞作文を学び、大学院進学後に祭式の講義の助手をしながら、特殊神事の研究等を行ないました。教壇に立って早20余年が経過し、顧みると自分の人生は祭式と共にあったことを実感します。

私に課せられた任務は、後継者の育成にあると自覚しています。何事も基本が大切で、神前に於ける立ち居振る舞いも全て基本作法が大前提となっています。神社を守り伝えるには「祭祀の厳修」が必須の条件であり、神職が心の籠った正しい作法で祭祀を奉仕する重要性を、しっかりと教え導きたいと思います。

准教授 加瀬 直弥 KASE Naoya

平成29年度担当科目 祭祀学 I・II　神道史学演習 I・II　神道文化基礎演習　神道文化演習　神社神道概説（別科）
神道史学演習テーマ 「古代・中世の神社を学ぶ」



◆出身地
神奈川県横浜市

◆専攻領域
古代・中世神道史

◆最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

◆学位
博士（神道学）

◆所属学会
神道宗教学会　神道史学会　国史学会　日本宗教学会

◆主な著書・論文
「古代朝廷祭祀に携わる神社の人々」（『霊と交流する人々』リトン、平成29年）
『平安時代の神社と神職』（吉川弘文館、平成27年）
『日本神道史』〈共著〉（吉川弘文館、平成22年）
『丹生都比売神社史』〈共著〉（同神社、平成21年）
『古代諸国神社神階制の研究』〈共著〉（岩田書院、平成14年）

体得を大事にする

小学生のころから日本の歴史に興味があった。やがて、古い時代を体得したいと思うようになり、各地をめぐるようになった。その際、神社は歴史を特に物語っているように見えた。最初は漠然とした関心だったが、大学在学中に神道の歴史を研究しようと考え、今に至る。幸い、関心がつとめに結び付いたが、その決め手は自身の信念や努力ではなく、心ある方々による有形無形の理解と支援だった。

人に示せる確たる信念を持ち、計画的な将来設計のもとで人生を歩むことは素晴らしいことだと思う。私にはできなかった。人生に無駄はないんだと思いながら体による経験だけで何とかなっている、というのが、今までを振り返った率直な感想である。

准教授 小林 宣彦 *KOBAYASHI Norihiko*

平成29年度担当科目 神道史学I 古典講読IIA・IIB 神道史学演習 I・II 神道文化基礎演習 神道文化演習
神道史学演習テーマ 「古代・中世を中心に神社の祭祀と祭神について考える」

◆出身地
栃木県

◆専攻領域
古代神道史 神道古典

◆最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了

◆学位
博士（宗教学）

◆所属学会
神道宗教学会 明治聖徳記念学会 古事記学会

◆主な著書・論文
國學院大學貴重書影印叢書 第4巻『日本書紀 古語拾遺 神祇典籍集』〈共著〉（朝倉書店、平成28年）
「律令祭祀の成立と神社」〈単著〉（『神道宗教』第243巻、平成28年）
「律令制の成立と祭祀 ―出雲神郡の成立を中心に―」〈単著〉（『國學院雑誌』第116巻第9号、平成27年）
「日本古代の神事と神郡に関する基礎的考察」〈単著〉（『國學院雑誌』第113巻第11号、平成24年）
「律令神祇制の再検討 ―霊験と祟りをめぐる神事のシステム化を中心に―」〈単著〉（『國學院雑誌』第112巻第2号、平成23年）

苦楽は表裏。皆さん次第です。

栃木県栃木市鎮座の太平山神社の長男として生まれました。大学生の時に神職講習会で正階を取得し、卒業後、神道学専攻科に進学して明階を取得しました。その後、大学院に進学し、本格的に神道について研究しました。大学院修了後は、兼任講師として研究にも携わっていましたが、実家に戻り神職として奉仕することで、神道の理論と実践を兼ねることができました。「神道とは何か」「神社の社会的役割とは何か」「神職のあるべき姿とは何か」これらの命題を考え続けることが、自身の研究にも大きな影響を与えました。

学生の皆さんには、在学中に学びの楽しさと苦しさを経験してもらいたいと思います。その経験が、きっと皆さんの人生の糧になるでしょう。

准教授 菅 浩二 *SUGA Koji*

平成29年度担当科目 神道と国際交流I・II EnglishII（神道英語I・II） 神道学演習 I・II 神道文化演習
神道学演習テーマ 「近現代のナショナリズムと宗教」

◆出身地
兵庫県

◆専攻領域
宗教とナショナリズム 近代神道史 歴史社会学

◆最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了

◆学位
博士（宗教学）

◆所属学会
神道宗教学会 日本宗教学会 「宗教と社会」学会 明治聖徳記念学会 国際アジア文化学会 他

◆主な著書・論文
『日本統治下の海外神社』（弘文堂、平成16年）
『戦争と宗教』（共著）（天理大学出版部、平成18年）
「「国家による戦没者慰霊」という問題設定」（『招魂と慰霊の系譜』錦正社、平成25年）
「冥王星と宇宙葬―死者と生者の共存、未知への遠近法」（『共存学３』弘文堂、平成27年）
The Ways of Religion: Interreligious Philosophical Dialogues, vol.2. (Routledge/Taylor & Francis 2017)

神社へのお参りは、自分と世界を結ぶ道の第一歩

人間と社会の姿が〈宗教〉に結ぶ像を通して、この時代と未来を考えましょう。そのためには歴史や言葉の勉強も、世界を知ることも重要です。何も努力せずには、何も身につきません（←自分にも言っています…）。

わが国の先人たちが、長い時間をかけて神々との関係を形にした「神道」は、現代の私たちにとっても大切な知恵の表われです。身近な神社へのお参りを、自分と世界のあいだを結ぶ道の第一歩を踏み出すこと、と考えてみて下さい。その道の向こうには、家族、仲間、地域、民族、くに、人類、環境…と、色々な共同性が見えています。

人の生活において、共同の意識を形作るものは何でしょうか。いろんな関心を持って一緒に学びましょう。

准教授 藤本 頼生 *FUJIMOTO Yorio*

平成29年度担当科目 神道教化概論Ⅰ·Ⅱ 宗教行政研究Ⅰ·Ⅱ 神社管理研究Ⅰ·Ⅱ 神道学演習Ⅰ·Ⅱ 神道文化基礎演習 神道文化演習 神道教化概論(専攻科) 宗教行政概論(専攻科)
神道学演習テーマ 「現代神道とは何か―神社と社会·教化活動の接点を考える―」

◆出身地
岡山県

◆専攻領域
神道教化論 宗教行政論 神道と福祉
都市社会と神社

◆最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期修了

◆学位
博士(神道学)

◆所属学会
神道宗教学会 日本宗教学会 「宗教と社会」学会 日本都市社会学会 宗教法学会 社会事業史学会 岡山地方史研究会 神道史学会

◆主な著書・論文
『神道と社会事業の近代史』(単著・弘文堂、平成21年)
『神社と神様がよ～くわかる本』(単著・秀和システム、平成26年)
『地域社会をつくる宗教』(編著・明石書店、平成24年)
『神社・お寺のふしぎ100』(監修・偕成社、平成27年)
『社会貢献する宗教』(共著・世界思想社、平成21年)
『宗教と福祉』(共著・皇學館大学出版部、平成18年)

神道のもつ多面的な価値を探そう

私は、地域に所在する神社と人々との関係や、社会的な活動に関心を持ちながら、神道の宗教的な役割は何かという点について研究を進めてきました。なかでも近代以降の神社や神職にかかる制度を中心に、教化活動や神社の管理や運営、政治や行政との関係性についても研究を進めることで、現代における神社神道の姿を明らかにしようと試みています。

グローバル化の波の中で、さまざまな価値観や考え方が混淆する現代の日本社会にあって、今後ますます、様々な多様性を包含する聖なる箱のような存在である神道の理念やあり方が注目されるものと思われます。

神祭りの姿や、それを形作る組織とネットワークの奥底にある人々の信仰のありようを窺いながら、神社のもつ多面的な価値を一緒に探しましょう。

専任講師 星野 光樹 *HOSHINO Mitsushige*

平成29年度担当科目 神社祭式概論Ⅰ·Ⅱ 祝詞作文Ⅰ·Ⅱ 神社祭祀演習Ⅰ·Ⅱ 神社祭式同行事作法Ⅰ(別科) 祝詞Ⅱ(別科)

◆出身地
茨城県水戸市

◆専攻領域
神道祭祀・祭式 国学

◆最終学歴
國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得

◆学位
博士(神道学)

◆所属学会
神道宗教学会 明治聖徳記念学会 禮典研究会

◆主な著書・論文
『近代祭式と六人部是香』(弘文堂、平成24年)
『国家神道再考』〈共著〉(弘文堂、平成18年)
「修祓に関する一考察」(『明治聖徳記念学会紀要』復刊第52号、平成27年)
「幕末期における復古的祭式と玉串行事について」(『神道宗教』第239号、平成27年)

神職としての矜持が持てる未来をめざして

昭和51年、茨城県水戸市に生まれる。自分の好きな歴史、それも、より精神的な分野について学びたいと思い、國學院大學文学部神道学科に進学。大学院に進んでからは、神道の根幹ともいうべき祭祀を学ぶことの重要性を諸先生からご教示いただき、研究テーマを祭祀の実践規範である祭式に定めた。これまでに蒙ることができた御神恩と学恩とに報いるため、祭式の理論面での研鑽と次世代を担う神職の養成に力を尽くしてゆきたいと考えている。

神職を目指す学生は、祭祀の伝統を学び、その重みを伝えていくために、それ相応の気概と努力が必要となる。神職としての矜持が持てるよう、仲間と切磋琢磨して大いに励んでもらいたい。健闘を祈る。

資料室・修学相談室について

神道文化学部資料室

神道文化学部では、学生が専門的な文献に身近に接することのできる環境として、各種資料を資料室に所蔵し、閲覧できるようにしています。研究室と同じフロアーにあり、資料室員がおりますので、お気軽におたずねください。

◎場　　所：渋谷キャンパス若木タワー17階
◎利 用 時 間：（月～土）9：30～17：30（但し、土曜日は隔週）
◎閉　室　日：日曜日、祝日、大学の行事日
◎利用対象者：本学教職員、学生、本学図書館の紹介者
◎利 用 方 法：所蔵資料の閲覧、複写（学内施設でのコピー）
◎検 索 方 法：國學院大學図書館OPAC「K-aiser（http://k-aiser.kokugakuin.ac.jp/）」を利用してください。
資料室所蔵資料の書誌データも収録されています。

・資料室には、古典・神道史・神社史などの専門図書・雑誌があり、利用時間内であれば閲覧できます。
・本の貸し出しは致しません（コピーは可、コピー持ち出しをした場合は、その日の資料室閉室時間までに返却してください）。
・和綴本のコピーはできません。

学部・教員から学生への連絡や、催し物案内の掲示なども行っています。

神道文化学部資料室員　堀口 裕美子

神道文化学部修学相談室

神道文化学部修学相談室では、学務補助員が学部生のみなさんの履修・勉学上の相談に応じています。履修登録、演習科目選択、授業や論文・リポートに関する疑問についてアドバイスします。また、演習で使用するレジュメ（資料）のコピーも受け付けています。大学生活における疑問等にもおこたえしておりますので、お気軽におたずねください。

◎場　　所：渋谷キャンパス若木タワー17階
◎利 用 時 間：（月～土）10：30～18：30（但し、土曜日は隔週）
◎閉　室　日：日曜日、祝日、大学の行事日

オフィスアワーについて

神道文化学部では、専任教員が学生の修学に関する相談に対応できるようにオフィスアワーの曜日・時間帯を設けています。
オフィスアワーの曜日・時間帯は各年度により異なりますので、神道文化学部資料室前の掲示をご確認ください。

Ⅱ. ディプロマ・ポリシー

神道文化学部（神道文化学科）は、学生が学部の専門教育において到達すべき教育目標を以下のように定めます。

A 知識・技能

（DP-A1）神道を中心とする日本の伝統文化と社会のあり方に関する基礎知識を身につけている。
（DP-A2）国内外の宗教文化に関する基礎知識を身につけている。
（DP-A3）神道文化や宗教文化および日本の伝統文化を社会の中で継承・展開するための知識・技能を身につけている。

B 思考力・判断力・表現力

（DP-B1）神道・宗教に関わる古典や資料の理解にもとづく思考力や判断力を身につけている。
（DP-B2）フィールドワークや実技・実習などによって、現代社会の諸事象を考察し、判断する力を身につけている。
（DP-B3）神道文化・宗教文化について身につけた知識・技能を文章・言語で表現できる。

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

（DP-C1）神道を中心とする日本の伝統文化を自ら協働して学ぼうとすることができる。
（DP-C2）国内外の宗教文化について多角的な視点から議論し協調することができる。
（DP-C3）多様な人々と協力しながら課題解決に取り組むことができる。

以上の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ、共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学位を授与します。

神　殿

天照大御神を主神とし、天神地祇八百万の神々を奉祀します。
昭和5年、皇典講究所理事で実業家の和田豊治の寄付を受けて大学構内に創建され、同年5月1日に御鎮座奉祝祭を執行しました。以後、毎年5月1日には神殿鎮座記念祭を斎行しています。また、新年をはじめ、年間の恒例祭祀や毎月の月次祭のほか、創立記念日や入学式・卒業式などの式日にも祭典を斎行しています。

神社関係の奉職について

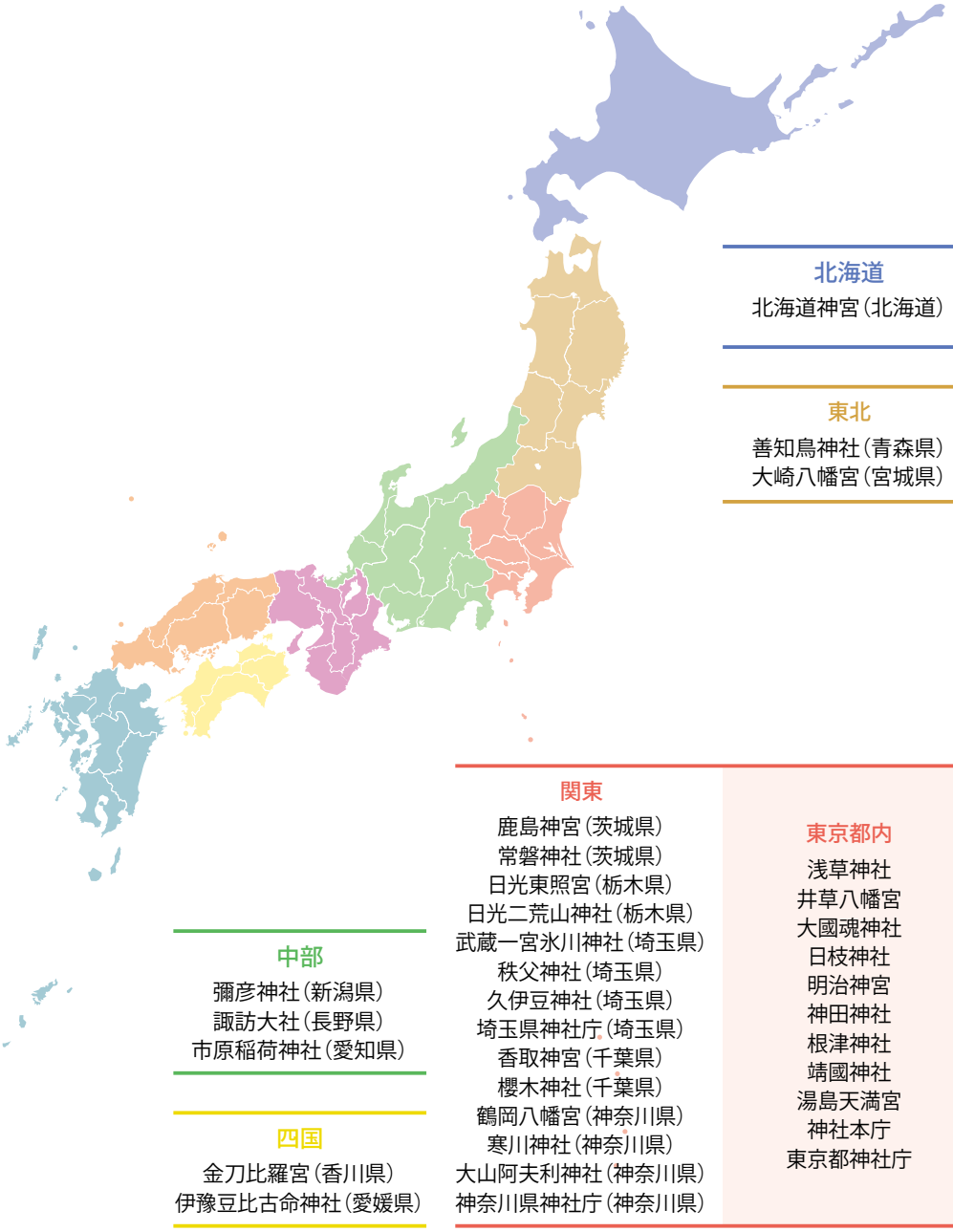
全国には80,000を超える神社があります。毎年、北海道から沖縄にいたるまで、例年150社以上の全国著名神社から求人申込みがあります。特に本学出身の方が奉仕している神社からは、ぜひ後輩を受け入れたいとの強い要望が寄せられます。

神職をはじめ神社に関わる職員は「労働者」ではなく、神々への「奉仕者」であるため、誠実な神社奉仕に努めて生活することが求められます。確固たる信仰心、奉仕の精神を持って、神社界に進まれることをお勧めします。

神社関係奉職行事予定

3年次	11月下旬～12月下旬	奉職説明会
	2月～3月	奉職個人面談（奉職希望調査票提出）
4年次	4月～3月	求人票閲覧及び推薦

平成28年度卒業生　主な奉職神社一覧



近畿
神宮司廳（三重県）
賀茂別雷神社（京都府）
石清水八幡宮（京都府）
貴船神社（京都府）
伏見稲荷大社（京都府）
北野天満宮（京都府）
石上神宮（奈良県）
大神神社（奈良県）
橿原神宮（奈良県）
春日大社（奈良県）

中国
出雲大社（島根県）
嚴島神社（広島県）
広島護國神社（広島県）

九州
太宰府天満宮（福岡県）
筥崎宮（福岡県）
宮地嶽神社（福岡県）
藤崎八旛宮（熊本県）
宇佐神宮（大分県）
新田神社（鹿児島県）

北海道
北海道神宮（北海道）

東北
善知鳥神社（青森県）
大崎八幡宮（宮城県）

中部
彌彦神社（新潟県）
諏訪大社（長野県）
市原稲荷神社（愛知県）

四国
金刀比羅宮（香川県）
伊豫豆比古命神社（愛媛県）

関東
鹿島神宮（茨城県）
常磐神社（茨城県）
日光東照宮（栃木県）
日光二荒山神社（栃木県）
武蔵一宮氷川神社（埼玉県）
秩父神社（埼玉県）
久伊豆神社（埼玉県）
埼玉県神社庁（埼玉県）
香取神宮（千葉県）
櫻木神社（千葉県）
鶴岡八幡宮（神奈川県）
寒川神社（神奈川県）
大山阿夫利神社（神奈川県）
神奈川県神社庁（神奈川県）

東京都内
浅草神社
井草八幡宮
大國魂神社
日枝神社
明治神宮
神田神社
根津神社
靖國神社
湯島天満宮
神社本庁
東京都神社庁

奉職内定者に聞く

奉職する神社を志望した理由は？

・大学の先輩に薦められた。実際にその神社に参拝して心動かされた。
・助勤している神社の職員の方に相談に乗ってもらった。
・神道研修事務課の職員に薦められて、祭りを実際に見学し、志望した。
・実家が神社に奉仕する社家で、結婚式場も経営しているので、神前結婚式を学べる神社に絞った。
・神社の事務職を志望し、家族や知り合いと話をして決めた。神道研修事務課の職員とも相談した。

面接試験のポイントは？

・志望理由を聞かれた。
・持っている資格を聞かれた。
・神社に来る人が抱く質問に、どう答えるべきか、具体的な質問があった。
・大学の成績が選考基準に含まれており、成績について聞かれた。

その他の試験は？

・筆記試験を課す神社がある。神社の由緒やまつりに関する問題が出た。
・SPIのような適性検査を行った。
・祭式の実技試験を行った。

奉職活動を成功させるために必要な経験・スキル・心構えは？

・学業を怠らない。
・神社の助勤は、将来のことを考える良い機会だ。現場の体験は大事だ。
・巫女舞など、男性神職にできない、負けないスキルを身に付けると、女子でも奉職できる。
・企業などへの就職活動も並行して行うのも良い。
・社家出身でなくとも、あきらめないことが大事。

國學院大學・神道文化学部の良さは？

・全国から神職の資格を取る人が集まっているので、交流ができた。
・東京に来ることができたのは大きな経験になった。
・部活でも神社と関わることができた。

※平成28年度奉職内定者座談会の発言を整理・抜粋しました。

神道研修事務課からのお知らせ

神道研修事務課について

國學院大學は、母体であった皇典講究所の創立以来、神職養成に一貫して努めてきており、数多くの神職を輩出してきています。
神道研修事務課は、神職養成に関する実務を行う中核となる部署であり、次のような業務を担当しています。

1．神社実習に関すること
2．神職資格の申請に関すること
3．神社関係への奉職（就職）、助勤（アルバイト）に関すること

事務取扱時間

曜　日	事　務　取　扱　時　間
月～金	9：00～12：50、13：40～19：40
土	9：00～12：50、13：40～17：00

神職資格について

神社本庁所属神社の神職となるためには、神社本庁が授与する階位（資格）が必要です。
①階位の種類
階位には、上位より浄階、明階、正階、権正階、直階があります。
②神職任用上の階位の区分
神職に任用される際には、次の階位を取得しておく必要があります。

別表神社（神社本庁より特に指定された神社）		別表神社以外の神社	
宮司・権宮司	明階以上を有する者	宮司・宮司代務者	権正階以上を有する者
宮司代務者・禰宜	正階以上を有する者	禰宜・権禰宜	直階以上を有する者
権禰宜	権正階以上を有する者		

③取得階位
國學院大學在学中に神職課程の所定の単位を修得し、神社実習を修了することによって、『正階（明階検定合格）』を取得することができます。さらに所定の要件を満たし、明階総合課程（⇒p.39）の受講を許可され所定の単位を取得ならびに神社実習を修了し、神社本庁の審査に合格した者は、『明階（明階検定合格）』が取得できます。

神職の階位証申請方法について

階位証は國學院大學が授与するものではなく、神社本庁が各都道府県の神社庁を通じて、授与するものです。
しかし、神職課程の所定の単位を修得し、神社実習を修了した本学の卒業見込者については、神社本庁がまとめて書類審査をし、卒業式当日に階位証を授与する方法をとっています。これを一括申請といい、神道研修事務課が窓口になっています。
所定の期間内に一括申請の手続きをしないと、個人で各都道府県の神社庁へ申請することになり、卒業式当日には階位証が授与されません。
なお、神社本庁が「階位検定及び授与に関する規程」で定めている申請料は次のとおりです。

『明階検定正階授与申請料』…￥120,000（平成29年3月現在）
『明階検定明階授与申請料』…￥150,000（平成29年3月現在）
※申請に必要な書類代、証明書代は別に必要です。

神社実習について

神職の階位を取得しようとする場合、神社本庁「階位検定及び授与に関する規程」の定めに従い、まず階位検定委員会の「検定（学識認定）」に合格したのち、所定の「神務実習」を修了しなければなりません。

しかし、國學院大學においては、卒業に要する単位と神職課程の単位を修得し、かつ本学所定の神社実習を修了することによって、卒業と同時に階位を取得することができます。神職の階位取得に必要な本学所定の神社実習は表のとおりです。実習参加手続等、詳細については4月（2年生以上）または6月（1年生）に開催する説明会でお知らせします。

※神宮実習ならびに中央実習は、明階総合課程（⇒p.39）の履修者のみ該当します。

【神道文化学部・他学部（神職課程）】

実習名	実施場所	実習期間	実習時期等
基礎実習	大学	2日間以上※	2年生以上は4月に1回。 1年生は6月と11月の2回。参加費不要
指定実習Ⅰ	大学及び明治神宮 （東京都）	8日間以上※ （内 明治神宮3泊4日）	夏季休暇中。 参加費26,000円（平成28年度）
指定実習Ⅱ	大学及び大学が指定した 神社（全国30社）	10日間以上※ （内 実習神社6泊7日）	夏季休暇中。 参加費26,000円（平成28年度）
指定実習Ⅲ	大学及び大学が承認した 神社	12日間以上	随時。参加費不要

※ 事前学習、事前研修会、書類作成日数等を含む。

【神道文化学部（明階総合課程）】

実習名	実施場所	実習期間	実習時期等
神宮実習 ※1	神宮（三重県）	6泊7日 ※2	夏期休暇中（4年次）
中央実習 ※1	神社本庁（東京都）	2泊3日 ※2	神宮実習を修了した者。2月下旬から3月中旬（学部は4年次）。 参加費15,000円（平成28年度）

※ 1 明階総合課程を履修していない学生は、神社本庁が示す実習受講の推薦基準を満たし大学が推薦することで参加することができる。
※ 2 この日程のほかに事前研修会あり。

神社関係への助勤（アルバイト）について

神社からの助勤には、下記のようなものがあり、その都度、神道研修事務課掲示板にて募集します。神職資格取得希望者以外の学生にも紹介しています。

なお、神社奉仕に不相応な服装、態度の者は、紹介をお断りしています。

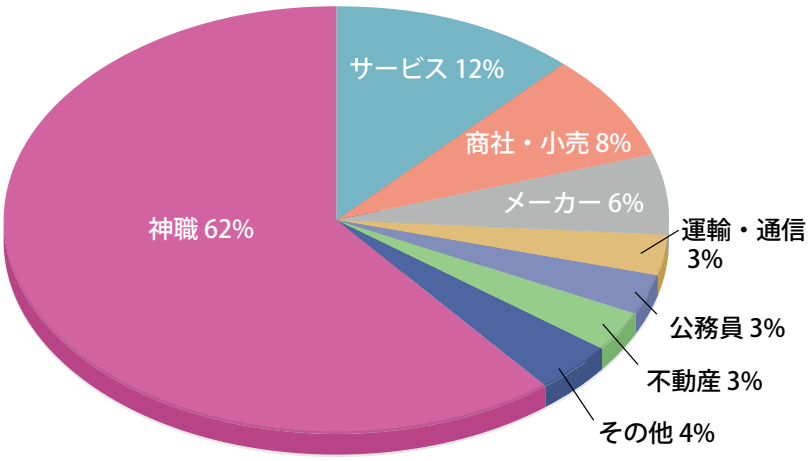
1. 祭典等の祭儀補助員（神職資格取得希望者に限る）
2. 繁忙時（年末年始等）の社頭奉仕
3. 神輿渡御（みこしとぎょ）などの行列諸役奉仕
4. 神社関係施設での奉仕（授与所等）

近年、神社界より卒業後すぐに現場で活躍できる人材の要望が高まっているため、所定の神社実習さえ修了すればよいという考え方ではなく、行学一致を心掛けるべく、在学中は積極的に神社関係の助勤に参加し、実践的な経験を積まれることを強く望みます。

就職について

卒業後の進路

神道文化学部の卒業生は、神社界にとどまらず、一般企業や官庁でも活躍しています。



卒業生の進路状況（第124期生　平成28年3月卒）

サポート体制

神道文化学部では、一般企業や官庁で活躍したい学生のために、ガイダンス・個別面談・セミナーを軸としたサポート体制を整えています。

あわせて、学年やライフスタイルにあわせた、学部独自のきめの細かい就職サポートもしています。

資格課程

神職以外の資格で、大学の課程で取得できる資格には、次のようなものがあります。

■教職課程

中学校教諭一種免許（社会）／副免許（国語・英語・中国語・保健体育）
高等学校教諭一種免許（公民）／副免許（国語・書道・英語・中国語・地理歴史・保健体育）

■その他の資格課程

博物館学芸員　社会教育主事　図書館司書　学校図書館司書教諭

※資格取得には綿密な履修計画と、高い修学意欲・実行力が必要です。

就職内定者に聞く

学生生活で就職活動に役立ったできごとは？

・学部での神道の学びを就職活動で活かせるように学んだ。
・学部の教員や事務職員からのアドバイスを受けた。
・自分の志望する業種に関連するサークルを選んだ。
・サークルの他学部の学生と、企業に関する情報交換をした。
・企業のインターンシップに参加した。
・スキル向上に役立つアルバイトをした。

観月祭・成人加冠式へのスタッフとしての参画も、学びと連結した実践になります。

自分をどう見直した？

・自らのキャリア形成をアピールする際、「学部での日本の伝統文化の学び」にした。
・「自己分析ノート」を作り、生い立ち、夢・目標から学部での学びで得たものまで記し、自分を総ざらいした。

4年次の時の就職活動は？

・幅広い職種の会社を受験した。1次でだめな会社もあったが、内定も複数もらった。
・大学のサポートで職種・企業を選び、学部の学びや神社助勤を一生懸命アピールした。
・長引いたが、面接結果の「フィードバック」をしてくれる会社があり、仕切り直すことができた。
・業種を絞ったが数多く受験した。内定前は落ち込まないよう気持ちを切り替えてトライしていた。

神道文化学部の学びをどうアピールした？

・日本文化を外国人に説明するトレーニングをし、海外の文化に親しんだ経験を活かしたい。
・学びで「日本人としてのまごころ」をみがき、祭式で礼を学んだ。
・日本や世界の宗教・文化の学びは、必ず仕事で活かせると思っている。
・「日本人が外国人並みに自国を知り、好きになれる」ような仕事をすることが夢だ。

後輩へのエールを！

・学部で学ぶような、「こころ」を大切にする企業は、決して少なくありません。
・祭式の授業や神社の助勤は、企業への就職にも「武器」になります。
・尻込みせず、学部の学びをアピールすれば、必ず道は開けると思います。
・「神道の学びを人生でどう活かしていくか」をじっくり考えてください。

※平成28年度に実施した就職内定者への聞き取り内容を整理・抜粋しました。

各種講座について

神道文化学部では、國學院大學出身の神職によって構成される「國學院大學院友神職会」の支援を受け、奉職・就職と「その先」を見据えた、社会人力を高めるための各種講座を主催しています。

これらの講座で、神社での実務的な社務のみならず、一般企業への就職にも活かせるスキルや教養を身に付けることができます。神道文化学部の学生は、無料で受講できます。

書道講座

書道を専門とする本学教員から、墨のすり方・筆の使い方、楷書・行書を学び、基礎を固めます。受講者の書の添削を行います。

講師　橋本 貴朗 文学部准教授　専門分野：書道 日本書道史

衣紋講座

重要な神社祭祀で用いる、単や袍の着装を受講者自らが実践します。指導は、衣紋襞の取り方や装束の畳み方など、詳細に及びます。

講師　小林 宣彦 准教授 (⇒P.16)

マナー講座

身なりをはじめ、挨拶やお辞儀の角度などの初歩的なマナーから、電話の取り方、食事のマナーに至るまで、社会人として必要なビジネスマナー・行儀作法の講義と演習を行います。

講師　竹内 慶子 氏　國學院大學卒業。民間企業勤務を経て、企業の新人研修、入社前教育等、各種ビジネス研修の講師を務める。

和歌講座

和歌を詠むための初歩的な心構えや知識を習得することをはじめ、名歌の鑑賞・解説や、受講者が詠んだ和歌の指導を行う講座です。

講師　田中 章義 氏（第36回角川短歌賞受賞／本学兼任講師）　世界各地で詠んだ短歌が英訳され、平成13年、世界で8人の国連WAFUNIF親善大使にアジアからただ1人選出された新進気鋭の歌人。

御幣講座

御幣を含めた祭具の研究を進める本学教員の指導のもと、御幣を実際に作ります。

講師　吉永 博彰 研究開発推進機構助教
専門分野：中世・近世神社史 神社有職故実

Ⅲ. カリキュラム・ポリシー

神道文化学部（神道文化学科）は、学位授与方針が示す教育目標を達成するため、
図に示すような教育課程を編成します。

科目群		卒業認定・学位授与方針（DP）									各科目群の教育目標
		知識・技能			思考力・判断力・表現力			主体性を保持しつつ多様な人々と協働して学ぶ態度			
		A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3	
専門基礎科目		◎	◎	○	○	○		○			神道を中心とする日本文化やその広がりである宗教文化の基礎を学ぶことで、関連する事柄への基本的知識や、史資料に基づく思考力などを身につける。
基幹講義科目	神道文化科目群	◎		○	◎			○			神道に関する研究の基本となる祭祀・古典・歴史・思想・神学・国学に関する知識や、関連する史資料に基づく思考力、神道文化を主体的に発信する態度などを身につける。
	宗教文化科目群	○	◎		○	◎			○		世界と日本の宗教文化、宗教に関する考古学や社会学を学ぶことで、宗教文化に関する知識や、現代社会の諸事象を考察する能力を得る。
基幹演習科目		○	○		○		◎			○	主体的な関心に基づく神道文化・宗教文化に関する発表やレポート・論文作成を通じ、社会でも通用するコミュニケーション力や表現力を高める。
展開科目	神職基幹科目群	○		◎	○	○		○			神道に関する専門的な事柄を学び、神社神職として必要となる基本的な知識・技能などを身につける。
	神職社会実践科目群	○		◎		○	◎	○	○		神道をめぐる現代的課題に関する専門的知識や、多角的な視点から考える態度などを身につける。
	宗教文化科目群	○	◎			○			○		国内外の宗教文化に関する専門的な知識を深く理解し、一定の説明能力を身につける。
	伝統文化科目群	○	◎			◎	○	○			神道を中心とする日本文化に関する知識を得るとともに、実技を通じて日本文化を理解する力などを獲得する。
選択科目		○		◎		○		○	○		神道文化、宗教文化を専門的ないし多角的に学ぶことで、これらの文化を広く社会に生かすための知識・技能などを身につける。

※「卒業認定・学位授与方針（DP）」の詳細は 19 ページを参照。

コースについて

ライフスタイルにあわせたフレックスコース（昼夜開講制）

神道文化学部ではフレックス開講制を取っています。時間帯を昼と夜に分け、それぞれ同じカリキュラムに基づいた授業を実施します。夜間主のコースを「フレックスAコース」、昼間主のコースを「フレックスBコース」といいます。コースは入試の際に選べますが、以後の変更はできません。

フレックスコースは2つありますが、原則どの時間帯の授業も受講できます。ただし、次の点については特に注意してください。

- 専門基礎科目（⇒p.30）と英語の科目（⇒p.29）は、フレックスAコースであれば夜間時間帯、フレックスBコースであれば昼間時間帯に受講することになります。
- 共通時間帯のみ開講の授業があります。
- 「フレックス特別給付奨学金」の受給学生は、昼間時間帯の授業を履修できません。

■フレックス開講制の授業時間帯（渋谷キャンパス）

時限	時間	月	火	水	木	金	土
1	8:50〜10:20						
2	10:30〜12:00						
3	12:50〜14:20						
4	14:30〜16:00						
5	16:10〜17:40						
6	17:50〜19:20						
7	19:30〜21:00						

■昼間授業時間帯　■共通授業時間帯　■夜間授業時間帯

学問の関心にあわせて選べる学科内コース（神道文化コース・宗教文化コース）

神道文化学部では「神道文化コース」と「宗教文化コース」の2つのコースを設けています。3年次にいずれかを選択することになります。

学科内コースも選択後の変更はできませんが、どの授業でも履修できます。

■神道文化コース

神道に関する諸分野を学び、神職になるための教養を身につけるコースです。内外の宗教文化についても学ぶことで、幅広い知識を身につけ、現代の神道に関わる諸課題に対応できる人材になることを目指します。

■宗教文化コース

内外の宗教文化を主として学び、研究するコースです。宗教文化の比較研究を通して、神道を中心とした日本文化の特色を捉え、日本の宗教文化を世界に発信できるような人材となることを目指します。

履修について

卒業に必要な単位

神道文化学部では、90分の授業を前期・後期のいずれか半期履修し、合格の評価を受けると2単位、通年履修の場合は4単位修得できます（一部の授業は半期1単位・通年2単位です）。

いずれのフレックスコース、または学科内コースに属していても、卒業するためには124単位修得することが必要です（神職など各種資格を取得するためには、124単位以上必要です）。

神道文化学部の授業は3つに区別され、うち2つは卒業に必要な単位がそれぞれ定められており、必修・選択必修の科目が設けられています。

124単位以上修得で卒業

- **専門教育科目**〔⇒p.30〕 **64単位以上**
- **全学オープン科目**〔本ページ〕
- **共通教育プログラムの科目**〔本ページ〕 **36単位以上**

共通教育プログラム

自らの関心のあることだけでなく、大学を卒業した社会人にふさわしい教養を身につけるため、國學院大學では「共通教育プログラム」を設け、外国語をはじめ、理系の諸学問やスポーツなど、様々な分野の科目を配置しています。神道文化学部の学生は、共通教育プログラムの科目を履修し、36単位以上修得しなければ卒業できません。

履修区分	履修方法	
必修（12単位）	1年次開講	「英語I」「英語II」「英語III」「英語IV」
	2年次開講	「英語V」「英語VI」
選択必修（8単位）	「数的推論」「コンピュータと情報」のうち1科目	
	専門教養科目群を構成するパッケージのうち、任意の1つに配当された3科目 ※パッケージは、『人文学』『法学・政治学A』『法学・政治学B』『経済学A』『経済学B』『自然科学』の6つです。	
選択（16単位以上）	上記以外の科目	

※選択科目の一部以外は、すべて半期2単位です。

※神道文化学部の学生は「神道と文化」を履修できません。また、履修に条件のある科目があります。

全学オープン科目（副専攻）

神道文化学部以外の学部の専門教育科目であっても、全学オープン科目であれば履修でき、修得した単位を卒業単位に含めることができます。

また、全学オープン科目を複数履修することで、他学部の専門分野を体系的に学べる副専攻のプログラムもあり、修了者には「副専攻修了証」が授与されます（副専攻のうち、「神道文化を学ぶ」・「宗教文化」は選べません）。

専門教育科目一覧

神道文化学部の卒業には、専門教育科目を64単位以上修得することが条件のひとつとなります。

		授業科目	開講	単位	開講学年 1	開講学年 2	開講学年 3	開講学年 4	卒業に必要な単位	神職資格取得に必要な科目 必修	列ごとに下記単位数分取得 ① 4単位	② 4単位	③ 16単位	年次別履修単位制限の枠外
専門基礎科目		神道概論	通年	4	○				２０単位必修	★				
		神道史学Ⅰ	通年	4	○					★				
		古典講読Ⅰ	通年	4	○					★				
		宗教学Ⅰ	半期	2	○								☆	
		宗教学Ⅱ	半期	2	○								☆	
		神道文化基礎演習	半期	2	○									
		神道文化演習	半期	2		○								
基幹講義科目	神道文化科目群	祭祀学Ⅰ	半期	2			○		６科目１２単位	★				
		祭祀学Ⅱ	半期	2			○			★				
		神道神学Ⅰ	半期	2			○				☆			
		神道神学Ⅱ	半期	2			○				☆			
		神道史学ⅡA	半期	2		○				★				
		神道史学ⅡB	半期	2		○				★				
		神道思想史学Ⅰ	半期	2		○					☆			
		神道思想史学Ⅱ	半期	2		○					☆			
		古典講読ⅡA	半期	2		○				★				
		古典講読ⅡB	半期	2		○				★				
		国学概論Ⅰ	半期	2		○							☆	
		国学概論Ⅱ	半期	2		○							☆	
	宗教文化科目群	世界宗教文化論Ⅰ	半期	2	○								☆	
		世界宗教文化論Ⅱ	半期	2	○								☆	
		日本宗教文化論Ⅰ	半期	2	○								☆	
		日本宗教文化論Ⅱ	半期	2	○								☆	
		宗教考古学Ⅰ	半期	2		○							☆	
		宗教考古学Ⅱ	半期	2		○							☆	
		宗教社会学Ⅰ	半期	2		○							☆	
		宗教社会学Ⅱ	半期	2		○							☆	
		比較文化学Ⅰ	半期	2		○							☆	
		比較文化学Ⅱ	半期	2		○							☆	
基幹演習科目		神道学演習Ⅰ	通年	4			○		１科目４単位					
		宗教学演習Ⅰ	通年	4			○							
		神道史学演習Ⅰ	通年	4			○							
		神道学演習Ⅱ	通年	4				○	１科目４単位					
		宗教学演習Ⅱ	通年	4				○						
		神道史学演習Ⅱ	通年	4				○						

※ ○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。
※ 神職資格取得に必要な科目のうち、★は必修、☆は選択必修を示す。
※ 年次別履修単位制限（CAP制）に基づき、1年間に登録できる履修単位数が年次別に制限されているが、△はCAP制の対象から除外される科目をあらわす。
※ この他、選択科目がある。

	授業科目		開講	単位	開講学年 1	開講学年 2	開講学年 3	開講学年 4	卒業に必要な単位	神職資格取得に必要な科目 必修	列ごとに下記単位数分取得 ① 4単位	② 4単位	③ 16単位	年次別履修単位制限の枠外
展開科目	神職基幹科目群	古典講読ⅢA	半期	2			○		16単位	★				
		古典講読ⅢB	半期	2			○			★				
		祝詞作文Ⅰ	半期	2			○			★				
		祝詞作文Ⅱ	半期	2			○			★				
		神社祭祀演習Ⅰ	通年	2		○				★				△
		神社祭祀演習Ⅱ	通年	2			○			★				△
		神社祭祀演習ⅢA	半期	2				○		★				△
		神社祭祀演習ⅢB	半期	2				○		★				△
		神社祭式概論Ⅰ	半期	2	○					★				
		神社祭式概論Ⅱ	半期	2	○					★				
		神社管理研究Ⅰ	半期	2			○					☆		
		神社管理研究Ⅱ	半期	2			○					☆		
	神道社会実践科目群	神社ネットワーク論Ⅰ	半期	2		○							☆	
		神社ネットワーク論Ⅱ	半期	2		○							☆	
		神道教化概論Ⅰ	半期	2			○			★				
		神道教化概論Ⅱ	半期	2			○			★				
		宗教行政研究Ⅰ	半期	2			○			★				
		宗教行政研究Ⅱ	半期	2			○			★				
		神道と国際交流Ⅰ	半期	2			○						☆	
		神道と国際交流Ⅱ	半期	2			○						☆	
		神道と環境Ⅰ	半期	2			○						☆	
		神道と環境Ⅱ	半期	2			○						☆	
		神道と情報化社会Ⅰ	半期	2			○					☆		
		神道と情報化社会Ⅱ	半期	2			○					☆		
	宗教文化科目群	教派神道研究Ⅰ	半期	2			○						☆	
		教派神道研究Ⅱ	半期	2			○						☆	
		キリスト教文化研究Ⅰ	半期	2		○							☆	
		キリスト教文化研究Ⅱ	半期	2		○							☆	
		仏教文化研究Ⅰ	半期	2		○							☆	
		仏教文化研究Ⅱ	半期	2		○							☆	
		中東文化研究Ⅰ	半期	2			○						☆	
		中東文化研究Ⅱ	半期	2			○						☆	
		東アジア文化研究Ⅰ	半期	2			○						☆	
		東アジア文化研究Ⅱ	半期	2			○						☆	
	伝統文化科目群	宗教芸術研究Ⅰ	半期	2			○						☆	
		宗教芸術研究Ⅱ	半期	2			○						☆	
		宗教音楽研究Ⅰ	半期	2			○					☆		
		宗教音楽研究Ⅱ	半期	2			○					☆		
		神道と武道Ⅰ	半期	2		○							☆	
		神道と武道Ⅱ	半期	2		○							☆	
		神道と書道Ⅰ	半期	2			○					☆		
		神道と書道Ⅱ	半期	2			○					☆		

神道文化学部のカリキュラム

共通教育プログラム（36単位）

國學院科目群	「神道と文化」		履修不可	
	その他		選択	
汎用的スキル科目群	「英語I～IV」		必修	12単位以上
	「数的推論」 「コンピュータと情報」		選択必修	2単位以上
	その他		選択	
専門教養科目群	バッケージ 『人文学』 『法学・政治学A』 『法学・政治学B』 『経済学A』 『経済学B』 『自然科学』	全科目	選択必修	6単位以上 （6単位は同一バッケージ内の科目で修得）
総合科目群	全科目		選択	

共通教育プログラムの修得単位のうち、36単位を超過した分

全学オープン科目（24単位）

副専攻（『神道文化を学ぶ』『宗教文化』を除く）	『日本語教育』	全科目	選択	26単位
	その他の副専攻			16単位
その他			選択	

専門教育科目の修得単位のうち、64単位を超過した分

専門教育科目（64単位）

専門基礎科目	全科目		必修	20単位
基幹講義科目	神道文化科目群 宗教文化科目群	全科目	選択必修	12単位以上
基幹演習科目	「神道学演習I」 「宗教学演習I」 「神道史学演習I」		選択必修	4単位以上
	「神道学演習II」 「宗教学演習II」 「神道史学演習II」			4単位以上
展開科目	神職基幹科目群 神道社会実践科目群 伝統文化科目群 宗教文化科目群	全科目	選択必修	16単位以上
選択科目	全科目		選択	

卒業に必要な単位 124単位

神職課程 76単位

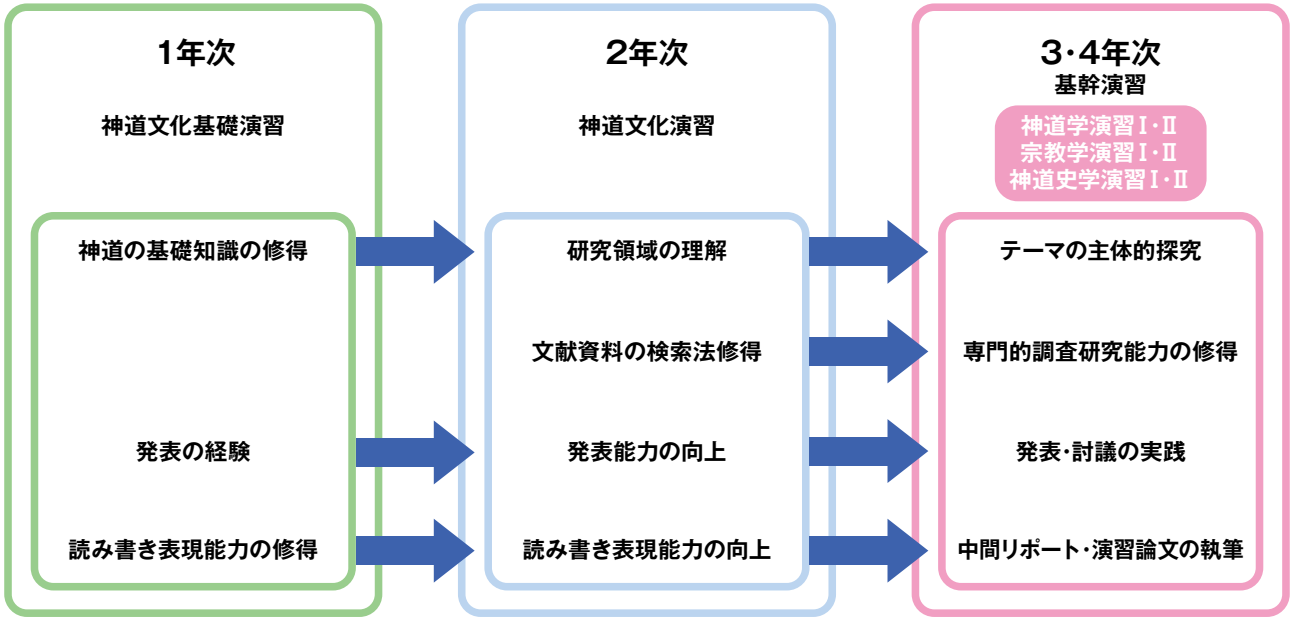
教職課程

その他資格課程

演習科目について

大学の授業の形式には、教員が教壇に立ち、学生に向かって話しながら進めていく「講義」のほかに、教員が与えた課題やテーマについて、学生が自分で調べたことを発表し、またほかの学生の発表を聴いて質疑応答や議論を行う「演習」があります。

神道文化学部では、このような演習科目が４年間のカリキュラムのなかに連続して設定されています。すなわち、1年次に「神道文化基礎演習」、2年次に「神道文化演習」、3・4年次には「神道学演習」、「宗教学演習」、「神道史学演習」のいずれかの基幹演習科目を履修します。



神道文化基礎演習（1年次）　神道文化・宗教文化を学ぶ基礎力を身につける

これからの大学生活において、神道を中心とする日本の伝統文化や内外のさまざまな宗教文化を学習・研究していく上で必要な基礎学力を修得します。

具体的には、神道の基礎知識についての小テストの実施や課題図書に対する読後リポートの作成、神道や宗教に関する発表などを行います。とくに発表に臨んでは、レジュメの作成方法や発表の手法を学んだ後、グループワークを数回行って、発表の内容を深めていきます。

このほか、神道資料が展示されている國學院大學博物館を見学し、モノを通じて神道の歴史を学びます。

神道文化演習（2年次）　専門演習への架け橋、基礎学力を確実なものにする

神道・宗教に関する文献や資料をもとに調査研究を進め、その成果についてリポートを作成し、発表を行います。これにより、文献・資料の調査能力や読解力、リポート・論文の作成能力、発表でのプレゼンテーション能力をさらに向上させるとともに、3年次以降に専門的な研究を行っていく上で基盤となる能力を培います。

また、外部の神社関係者による講話や奉職・就職に関するガイダンスも開催され、奉職や就職に対する心構えや助言を受けて、3年次以降本格化する奉職・就職活動に備えます。

基幹演習科目（3・4年次）　主体的な関心に基づき、本格的な学修を進める

神道・宗教に関するテーマを設定して専門的な調査研究を行い、その成果を発表するとともに、リポート・論文を作成します。

具体的には、自らがテーマと研究計画を立て、担当教員の指導を受けながら調査研究を進めていき、発表においては、ほかの学生との議論を通じて互いに問題関心を共有しつつ、研究を深めていきます。通常3年次に中間リポート（6,000字以上）、4年次の最後には演習論文（12,000字以上）を作成し、大学生活の集大成となる研究成果をまとめあげます。

履修モデルについて

神道文化学部では、学生が各々の学問的関心に根ざして履修が組めるよう、A～Eの履修モデルを作成しています。
ただし、必ずしもいずれかの履修モデルに合致させなければならないということではありません。

履修モデル A	古代・中世の神道史	⇒ p.36
履修モデル B	近世・近代の神道史	⇒ p.36
履修モデル C	神道の社会的実践	⇒ p.37
履修モデル D	宗教文化	⇒ p.41
履修モデル E	日本の伝統文化	⇒ p.41

履修モデルにおける履修表

（　）内の数字は単位数

授業科目区分		1年	2年	3年	4年	単位数
共通教育プログラム		英語（12）　＋　選択必修（8）　＋　選択（16）　※p.32参照				36
専門教育科目	専門基礎科目	神道概論（4） 神道史学Ⅰ（4） 古典講読Ⅰ（4） 宗教学Ⅰ（2） 宗教学Ⅱ（2） 神道文化基礎演習（2）	神道文化演習（2）			20
専門教育科目	基幹講義科目	次ページ以降の各履修モデルを参照のこと				12～
専門教育科目	基幹演習科目					8
専門教育科目	展開科目					16～
専門教育科目	選択科目					（8～）
専門教育科目	小計					
全学オープン科目（副専攻）						

単位数合計	124～

●共通教育プログラムは、必修科目（英語）12単位、選択必修科目8単位（汎用的スキル科目群より2単位＋専門教養科目群より6単位）のほか、16単位を選択して単位を修得する。これら科目は、１年次から４年次の間に修得するものとして、以下の履修モデルでは、具体的な科目名は省略し、科目の分類と単位数のみ記載する。

●専門教育科目の必修科目である専門基礎科目の20単位の内容は上記のとおりであるが、以下の履修モデルでは、１・２年次にこれらを修得することを前提に、単位数のみ（１年次18単位、２年次２単位）記載することとする。

●履修モデルで具体的な科目を示しているのは、上記の表以外の科目（赤い枠）となる。履修モデルによって科目群ごとに修得する単位数が異なり、４年間で修得した単位数が卒業に必要な単位（要卒単位）を超える場合は、赤字で示す。

神道文化基礎演習

神道や宗教に関し、学生自らが調査・発表することなどを通じて、これからの大学生活において神道文化や宗教文化を学修・研究していく上で必要な基礎学力を修得します。

神職資格を取得する場合（神職課程）

神職資格取得に必要な科目（必修科目、選択必修科目）はすべて、専門教育科目に配置されています。これらの単位を修得すると、専門教育科目の単位は卒業に必要な64単位を24単位超過して88単位となります。この超過分24単位が、そのまま卒業に必要な単位として認定されるので、共通教育プログラムで修得した36単位と合わせて卒業が可能となります。

学生は、神職課程に設定された各選択科目のなかから、自分の関心に基づいて単位を修得することになります。A～Cの履修モデルは、その一例として提示したものです。

〔神職資格取得に必要な科目〕

必修科目　神道概論, 神道史学Ⅰ, 神道史学ⅡA・ⅡB, 古典講読Ⅰ, 古典講読ⅡA・ⅡB, 古典講読ⅢA・ⅢB
祭祀学Ⅰ・Ⅱ, 神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ, 神社祭祀演習Ⅰ, 神社祭祀演習Ⅱ, 神社祭祀演習ⅢA・ⅢB
祝詞作文Ⅰ・Ⅱ, 神道教化概論Ⅰ・Ⅱ, 宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ

選択必修科目①　神道思想史学Ⅰ・Ⅱ, 神道神学Ⅰ・Ⅱから2科目4単位を選択

選択必修科目②　神社管理研究Ⅰ・Ⅱ, 神道と情報化社会Ⅰ・Ⅱ, 宗教音楽研究Ⅰ・Ⅱ, 神道と書道Ⅰ・Ⅱから2科目4単位を選択

選択必修科目③　神職課程の必修科目、選択必修科目①、②および演習科目（神道文化基礎演習、神道文化演習、基幹演習科目）以外の専門教育科目から16単位を選択

（　）内の数字は単位数

		1年	2年	3年	4年
必修科目	52単位	神道概論（4）			
		神道史学Ⅰ（4）	神道史学ⅡA・ⅡB（2）（2）	祭祀学Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	
		古典講読Ⅰ（4）	古典講読ⅡA・ⅡB（2）（2）	古典講読ⅢA・ⅢB（2）（2）	
				祝詞作文　Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	
				神道教化概論Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	
				宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	
		神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	神社祭祀演習Ⅰ（2）	神社祭祀演習Ⅱ（2）	神社祭祀演習ⅢA・ⅢB（2）（2）
選択必修科目	①4単位以上		神道思想史学Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	神道神学Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	
	②4単位以上			神社管理研究Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	
				神道と情報化社会Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	
				宗教音楽研究　Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	
				神道と書道　Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	
	③16単位以上	宗教学Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	国学概論Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	神道と国際交流Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	
		世界宗教文化論Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	宗教考古学Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	教派神道研究　Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	
		日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	宗教社会学Ⅰ・Ⅱ（2）（2）		
			比較文化学Ⅰ・Ⅱ（2）（2）		
			神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ（2）（2）		
			神道と環境　Ⅰ・Ⅱ（2）（2）		
			キリスト教文化研究Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	中東文化研究Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	
			仏教文化研究Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	東アジア文化研究Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	
			神道と武道Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	宗教芸術研究　Ⅰ・Ⅱ（2）（2）	

履修モデルA

―神道の歴史（古代・中世）を学びたい学生―

古代・中世の神社・古典や祭祀に関する学修を中心とした履修モデルです。

1・2年次には、必修科目である「神道史学Ⅰ」により古代・中世の神道史の基礎知識を養い、「日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ」で日本の共同体と儀礼文化に関して、「宗教考古学Ⅰ・Ⅱ」で神社や祭祀の起源について各々学び、3・4年次からは「神道史学演習Ⅰ・Ⅱ」により、文献の読解方法や個別のテーマに即した調査研究の仕方などを身につけ、日本の歴史における神道の位置づけや意義について考察を深めます。

この履修モデルは、神道を形成する伝統文化や歴史を説明できる神職を志す学生の履修に適しています（下の表は神職課程の履修モデルとなっています）。

授業科目区分			1年	2年	3年	4年	単位数※
共通教育プログラム			英語（12）＋選択必修（8）＋選択（16）				36
専門教育科目	専門基礎科目		（18）	（2）			20
	基幹講義科目	神道文化科目群		神道史学ⅡA・ⅡB 古典講読ⅡA・ⅡB	祭祀学Ⅰ・Ⅱ 神道神学Ⅰ・Ⅱ		24
		宗教文化科目群	日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ	宗教考古学Ⅰ・Ⅱ			
	基幹演習科目群				神道史学演習Ⅰ	神道史学演習Ⅱ	8
	展開科目	神職基幹科目群	神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ	神社祭祀演習Ⅰ	古典講読ⅢA・ⅢB 神社祭祀演習Ⅱ 神社管理研究Ⅰ・Ⅱ	祝詞作文Ⅰ・Ⅱ 神社祭祀演習ⅢA・ⅢB	40
		神道社会実践科目群			神道教化概論Ⅰ・Ⅱ 宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ		
		宗教文化科目群					
		伝統文化科目群		仏教文化研究Ⅰ・Ⅱ	宗教芸術研究Ⅰ・Ⅱ		
	選択科目						0
全学オープン科目（副専攻）							0
							128

※赤字は卒業に必要な単位（要卒単位）を超過する部分を示す。

履修モデルB

―神道の歴史（近世・近代）を学びたい学生―

近世・近代の神道思想や神道史に関する学修を中心とした履修モデルです。

神職課程の必修科目である「神道史学ⅡA・ⅡB」により近世・近代の神道の歴史についての基礎を学ぶことを前提に、近世ではさらに「国学概論Ⅰ・Ⅱ」、「神道思想史学Ⅰ・Ⅱ」などで国学や神道思想の展開を学び、近代については「宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ」、「教派神道研究Ⅰ・Ⅱ」などで、より専門的に近代神道の歴史的変遷を学びます。3・4年次には、「神道史学演習Ⅰ・Ⅱ」において近世・近代の神道史上におけるさまざまな具体的課題を探求します。

この履修モデルは、現代の神社のあり方や神道教学の基礎となる近世・近代の神道史および国学・神道思想を熟知し、社頭での活動でも実践できる神職を目指す学生の履修に適しています（下の表は神職課程の履修モデルとなっています）。

授業科目区分			1年	2年	3年	4年	単位数※
共通教育プログラム			英語（12）＋選択必修（8）＋選択（16）				36
専門教育科目	専門基礎科目		（18）	（2）			20
	基幹講義科目	神道文化科目群		神道史学ⅡA・ⅡB 神道思想史学Ⅰ・Ⅱ 古典講読ⅡA・ⅡB 国学概論Ⅰ・Ⅱ 宗教社会学Ⅰ・Ⅱ	祭祀学Ⅰ・Ⅱ 神道神学Ⅰ・Ⅱ		28
		宗教文化科目群					
	基幹演習科目群				神道史学演習Ⅰ	神道史学演習Ⅱ	8
	展開科目	神職基幹科目群	神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ	神社祭祀演習Ⅰ	古典講読ⅢA・ⅢB 神社祭祀演習Ⅱ	祝詞作文Ⅰ・Ⅱ 神社祭祀演習ⅢA・ⅢB	40
		神道社会実践科目群		神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ	神道教化概論Ⅰ・Ⅱ 宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ	神道と情報化社会Ⅰ・Ⅱ	
		宗教文化科目群			教派神道研究Ⅰ・Ⅱ		
		伝統文化科目群					
	選択科目						0
全学オープン科目（副専攻）							0
							132

※赤字は卒業に必要な単位（要卒単位）を超過する部分を示す。

履修モデルC

―神道の社会的実践を学びたい学生―

現代社会における神道に関する学修を中心とした履修モデルです。

「神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ」や「神社祭祀演習Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢB」で祭式を厳修することをはじめ、「神社管理研究Ⅰ・Ⅱ」や「神道教化概論Ⅰ・Ⅱ」で神社実務、神道教化など、神職としてのさまざまな実践の技能を身につけます。さらに、「神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ」で文化財保護・まちづくり・地域福祉に関する行政・教育機関・福祉団体・NPOなどとの連携を学び、現代における神社の社会的役割を自らが担い手となって果たしていくための能力と意欲を高めていきます。

この履修モデルは、地域社会で即戦力として役立つ能力をそなえた神職を目指す学生の履修に適しています（下の表は神職課程の履修モデルとなっています）。

授業科目区分			1年	2年	3年	4年	単位数※
共通教育プログラム			英語（12）＋選択必修（8）＋選択（16）				36
専門教育科目	専門基礎科目		（18）	（2）			20
	基幹講義科目	神道文化科目群		神道史学ⅡA・ⅡB 古典講読ⅡA・ⅡB 国学概論Ⅰ・Ⅱ	祭祀学Ⅰ・Ⅱ 神道神学Ⅰ・Ⅱ		24
		宗教文化科目群		宗教社会学Ⅰ・Ⅱ			
	基幹演習科目群				神道学演習Ⅰ	神道学演習Ⅱ	8
	展開科目	神職基幹科目群	神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ	神社祭祀演習Ⅰ	古典講読ⅢA・ⅢB 神社祭祀演習Ⅱ 神社管理研究Ⅰ・Ⅱ	祝詞作文Ⅰ・Ⅱ 神社祭祀演習ⅢA・ⅢB	48
		神道社会実践科目群		神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ	神道教化概論Ⅰ・Ⅱ 宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ	神道と環境Ⅰ・Ⅱ	
		宗教文化科目群					
		伝統文化科目群			宗教音楽研究Ⅰ・Ⅱ	神道と書道Ⅰ・Ⅱ	
	選択科目						0
全学オープン科目（副専攻）							0
							136

※赤字は卒業に必要な単位（要卒単位）を超過する部分を示す。

神道教化概論Ⅰ・Ⅱ

「神道教化」について、教化活動に関する基礎知識を理解・修得するとともに、教化の主体となる神職および神社の活動の概要や歴史、実状を理解します。

祭式カリキュラム

神道文化学部では、神職を目指す学生に向けて、「神社祭祀演習」の科目が2年次から4年次までのカリキュラムのなかに連続して設定されています。これら一連の科目により、祭祀の"こころ"の表現である神社祭式の行事・作法を基礎から応用まで学ぶことができます。

「神社祭祀演習」は、専用の祭式教室で行われ、教員による指導のほか祭式補助員がサポートしています。また、それぞれの達成度に応じた祭式補習や自主練習なども実施しています。

基礎を固める（2年次）

神社祭祀演習Ⅰ

1年次に「神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ」で古典を通じて祭祀・祭式の本義について学んだ上で、祭祀を実践する際の基礎となる作法や初歩的な行事を修得します。

応用を学ぶ（3年次）

神社祭祀演習Ⅱ

行事・作法の総合的な練習を通じて、各人が祭祀をとどこおりなく奉仕できるようにします。

発展的な学修（4年次）

神社祭祀演習ⅢA

祭典奉仕に必要な有職故実の知識と、装束着装の技術を学びます。

神社祭祀演習ⅢB

行事・作法の総仕上げを行うとともに、諸祭についての実践的な技能を修得します。

明階総合課程について

明階総合課程は4年次生対象に開講される課程です。卒業と同時に指導的神職として活躍できる人材の育成を目的に設置されており、本課程を修了した後、神社本庁の成績審査に合格すれば、『明階』の階位が授与されます。
なお、本課程を受講できるのは下記受講条件をすべて満たす者に限られます。

受講資格

明階総合課程を受講できる者は、國學院大學神道文化学部の4年生（再4年生は不可）に在籍し、かつ次の要件を全て満たしたうえで、神道研修部委員会が受講を許可した者とする。

1）3年次終了時点において、「神職課程」に必要な単位をすべて修得している者（「神社祭祀演習ⅢA・ⅢB」は4年次 に履修登録すること）。
2）3年次終了時点において、「神職課程」に必要な神社実習をすべて終了し、その実習の優良な者。
3）下記科目の評価がA以上であること。ただし、いずれか一科目はBでも可とする。
　イ　神社祭祀演習Ⅰ　　**ロ**　神社祭祀演習Ⅱ
4）卒業後、神社に奉職する意志の強固である者。

履修手続

1）明階総合課程受講申請及び履修についての説明は、3年次の後期に行い、3月初めに申請を受け付ける。
2）受講の許可を受けた場合、4年次の履修登録時に明階総合課程に必要な科目を登録すること。
3）課程の受講を開始する年次の4月下旬の定められた期日までに、証明書自動発行機から明階総合課程費を納入すること。

履修上の注意

明階総合課程の必要単位および実習を4年次終了時にすべて修得できなかった場合、再履修することはできない。再4年生になった場合も同様とする。

神社実習について

明階総合課程を修了するには、科目履修のほかに神社実習が必要となる。
神社実習に関する事務は、神道研修事務課が担当する。（詳細は神道研修事務課前掲示板で確認のこと）。
所定の神社実習は「神宮実習」と「中央実習」である。
　神宮実習： 4年次の8月（7日間）
　中央実習： 4年次の2～3月（3日間）

明階総合課程開講講座表

	神社本庁規程	授業科目	単位	開講区分	備　考
必修科目（14単位）	皇室・神宮に関する講義	祭祀学特殊講義	2	半期	講義
	神道教学・教化に関する講義または演習	神道教学特論	2	半期	講義
		神道教化システム論	2	半期	演習
	祭祀実技に関する講義または演習	神社祭式特論	2	半期	演習
	神社の管理運営に関する講義または演習	神社管理特論	2	半期	講義
		神社実務演習	2	通年	講義
	現代思潮に関する講義	現代時局論	2	半期	講義

神道教化システム論
教化活動を行う上で、コンピューター・システムを有効活用するために必要な知識と技能を学びます。

宗教文化士について

「宗教文化士」とは、日本や世界の宗教の歴史と現状について、一定の理解を得た人に対して与えられる資格です。とくに社会の中で活かせる知識を養っていることが求められます。

資格を得るためには、大学において次の3つの到達目標に対応した科目合計16単位以上を修得し、認定試験に合格することが必要です。

1　教えや儀礼、神話を含む宗教文化の意味について理解できる。
2　キリスト教、イスラーム、ヒンドゥー教、仏教、神道などの宗教伝統の基本的な事実について、一定の知識を得ることができる。
3　現代人が直面する諸問題における宗教の役割について、公共の場で通用する見方ができる。

認定試験は記号選択式（50問）と論述式（1問）からなり、國學院大學も試験会場の一つです。
詳しくは、宗教文化教育推進センターのホームページ（http://www.cerc.jp)をご覧ください。

神道文化学部のカリキュラムでは、以下の科目が宗教文化士の認定科目となっています。

認定科目	単位	到達目標		
		1	2	3
神道概論	4		○	
神道史学Ⅰ	4		○	
宗教学Ⅰ	2	○	○	○
宗教学Ⅱ	2	○	○	○
神道史学ⅡA	2		○	
神道史学ⅡB	2		○	
神道思想史学Ⅰ	2		○	
神道思想史学Ⅱ	2		○	
国学概論Ⅰ	2		○	
国学概論Ⅱ	2		○	
世界宗教文化論Ⅰ	2	○	○	
世界宗教文化論Ⅱ	2	○	○	
日本宗教文化論Ⅰ	2	○	○	
日本宗教文化論Ⅱ	2	○	○	
宗教考古学Ⅰ	2		○	
宗教考古学Ⅱ	2		○	
宗教社会学Ⅰ	2	○	○	○
宗教社会学Ⅱ	2	○	○	○

認定科目	単位	到達目標		
		1	2	3
比較文化学Ⅰ	2	○		
比較文化学Ⅱ	2	○		
神社祭式概論Ⅰ	2	○		
神社祭式概論Ⅱ	2	○		
神社ネットワーク論Ⅰ	2		○	○
神社ネットワーク論Ⅱ	2		○	○
宗教行政研究Ⅰ	2			○
宗教行政研究Ⅱ	2			○
神道と国際交流Ⅰ	2		○	○
神道と国際交流Ⅱ	2		○	○
神道と環境Ⅰ	2		○	○
神道と環境Ⅱ	2		○	○
神道と情報化社会Ⅰ	2		○	○
神道と情報化社会Ⅱ	2		○	○
教派神道研究Ⅰ	2		○	
教派神道研究Ⅱ	2		○	

認定科目	単位	到達目標		
		1	2	3
キリスト教文化研究Ⅰ	2	○	○	
キリスト教文化研究Ⅱ	2	○	○	
仏教文化研究Ⅰ	2	○	○	
仏教文化研究Ⅱ	2	○	○	
中東文化研究Ⅰ	2	○	○	
中東文化研究Ⅱ	2	○	○	
東アジア文化研究Ⅰ	2	○	○	
東アジア文化研究Ⅱ	2	○	○	
宗教芸術研究Ⅰ	2		○	
宗教芸術研究Ⅱ	2		○	
宗教音楽研究Ⅰ	2		○	
宗教音楽研究Ⅱ	2		○	
神道と武道Ⅰ	2		○	○
神道と武道Ⅱ	2		○	○

履修モデルD

―宗教文化をひろく学びたい学生―

宗教文化科目を中心に履修するモデルです。

宗教についての全般的な知識を学びながら、世界の諸文化への理解を深め、「宗教社会学Ⅰ・Ⅱ」や「比較文化学Ⅰ・Ⅱ」などにより学問的な視野をひろげます。3・4年次では、「宗教学演習Ⅰ・Ⅱ」での調査・発表や議論を通じて、さまざまな宗教文化に関する研究調査法を修得しつつ、プレゼンテーション能力を磨きます。

国際化・グローバル化が進む現代社会のなかで、異文化との相互理解の上で、自文化を説明する能力が求められる職種を志望する学生に適しています　（下の表は「宗教文化士」の資格取得を視野に入れた履修モデルとなっています）。

授業科目区分			1年	2年	3年	4年	単位数※
共通教育プログラム			英語（12）＋選択必修（8）＋選択（16）				36
専門教育科目	専門基礎科目		（18）	（2）			20
	基幹講義科目	神道文化科目群					16
		宗教文化科目群	日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ 世界宗教文化論Ⅰ・Ⅱ	宗教社会学Ⅰ・Ⅱ 比較文化学Ⅰ・Ⅱ			
	基幹演習科目				宗教学演習Ⅰ	宗教学演習Ⅱ	8
	展開科目	神職基幹科目群					44
		神道社会実践科目群		神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ 神道と環境Ⅰ・Ⅱ	宗教行政研究Ⅰ・Ⅱ 神道と国際交流Ⅰ・Ⅱ	神道と情報化社会Ⅰ・Ⅱ	
		宗教文化科目群		キリスト教文化研究Ⅰ・Ⅱ 仏教文化研究Ⅰ・Ⅱ	教派神道研究Ⅰ・Ⅱ 中東文化研究Ⅰ・Ⅱ 東アジア文化研究Ⅰ・Ⅱ		
		伝統文化科目群				宗教芸術研究Ⅰ・Ⅱ	
	選択科目						0
全学オープン科目（副専攻）							0
							124

※赤字は卒業に必要な単位（要卒単位）を超過する部分を示す。

履修モデルE

―日本の伝統文化を学びたい学生―

日本の伝統文化・基層文化に関心をもつ学生のための履修モデルです。

神道を中心に、民俗・慣習・社会規範などにあらわれる日本の伝統文化・基層文化について学び、さらに東アジアをはじめ異文化社会との比較を通じて、日本文化に関する理解を深めていきます。また、武道、書道、芸術、音楽などを体験的に学ぶ機会を得ることもできます（下の表は、「宗教文化士」の資格取得を視野に入れるとともに、副専攻「民俗と文化」の履修モデルとなっています）。

授業科目区分			1年	2年	3年	4年	単位数※
共通教育プログラム			英語（12）＋選択必修（8）＋選択（16）				36
専門教育科目	専門基礎科目		（18）	（2）			20
	基幹講義科目	神道文化科目群		神道史学ⅡA・ⅡB 古典講読ⅡA・ⅡB	祭祀学　Ⅰ・Ⅱ		20
		宗教文化科目群	日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ	宗教考古学Ⅰ・Ⅱ			
	基幹演習科目				宗教学演習Ⅰ	宗教学演習Ⅱ	8
	展開科目	神職基幹科目群					28
		神道社会実践科目群		神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ 神道と環境Ⅰ・Ⅱ			
		宗教文化科目群			東アジア文化研究Ⅰ・Ⅱ		
		伝統文化科目群		神道と武道Ⅰ・Ⅱ	宗教芸術研究Ⅰ・Ⅱ	宗教音楽研究Ⅰ・Ⅱ 神道と書道Ⅰ・Ⅱ	
	選択科目						0
全学オープン科目（副専攻）				民俗学史Ⅰ・Ⅱ	伝承文学史Ⅰ・Ⅱ 日本民俗学Ⅰ・Ⅱ 儀礼文化論Ⅰ・Ⅱ	伝承文学思想	18
							130

※赤字は卒業に必要な単位（要卒単位）を超過する部分を示す。
※副専攻「民俗と文化」の修了に必要な単位は16単位。

奨学金制度

國學院大學の奨学金制度には、経済的な理由により修学が困難な学生や、成績が優秀な学生を対象とする奨学金のほかに、神道文化学部の学生を主な対象とした神職子女奨学金やフレックス特別給付奨学金などがあります。

神職子女奨学金

対　象：神道・宗教特別選考で入学した新入生
支給額：［１年次生］自宅外通学者　400,000円／自宅通学者　200,000円
［２年次生以上］自宅外・自宅通学者ともに年額10万円支給（学業成績の上位20名以内）

フレックス特別給付奨学金

対　象：夜間の時間帯（月～金曜日の5～7時限および土曜日1～7時限）の科目のみで授業を履修するフレックスAコースの在学生（年度ごとに申請が必要）
支給額：400,000円

神社界からの奨学金

卒業後神職になろうとする学生、または神道に関する研究に従事しようとする学生への支援のため、神社界から支給される奨学金です。

神社本庁育英奨学金

対　象：学部２年生以上、または神道学専攻科在学生、卒業後神社本庁包括下の神社で神職を志す者、又は神道に関する研究に従事しようとする者。
支給額：300,000円

伏見稲荷大社奨学金

対　象：神道文化学科、神道学専攻科、別科神道専修に在学し、卒業後神職又は神社神道並びに稲荷信仰の普及に関する業務に従事する者 。
支給額：240,000円

全国敬神婦人連合会育英奨学金

対　象：神職の子女、若しくは「全国敬神婦人連合会」の会員の子女で、卒業後神職となり、または神道に関する研究に従事しようとする、学部２年生以上の者 。
支給額：150,000円

学部神社実習生制度

神道文化学部には、夜間の時間帯で授業を履修する学生（主に男子学生）を対象に、東京都内の神社に起居し、昼間は神社での奉仕を通じて神職になるために必要な実務を積み、精神を養う学部神社実習生制度があります。
実習生には、神社奉務が身に付くばかりか、下宿費および食費も不要となるほか、実習神社から別科授業料相当額が支給されます。

実習神社　（平成28年度）

○穴守稲荷神社	○香取神社	○子安神社	○白鬚神社
○天祖神社	○東京大神宮	○富岡八幡宮	○日枝神社
○明治神宮	○靖國神社	○六郷神社	

Ⅳ. アドミッション・ポリシー

◎求める人材、期待される入学者像

國學院大學神道文化学部は、神道を中心とする日本文化への高い関心と、国内外の宗教文化を広く学ぼうとする意欲とを持ち、宗教・文化の継承者として、人々の共存や社会の発展に寄与しようとする人材を受け入れます。

具体的には、次のような意欲・意志を持って、学びの成果を社会に活かそうとしている人材を求めています。

(1) 神道の歴史・思想を学ぶ意欲を持つ者
(2) 神道の社会的実践について学ぶ意欲を持つ者
(3) 日本の伝統文化を深く学ぶ意欲を持つ者
(4) 世界の宗教文化を広く学ぶ意欲を持つ者
(5) 神社や神道系宗教団体の後継者を志す者

◎入学者選考の観点

人材受け入れのため、次の観点から受験生を選考します。

(AP1) 神道を中心とする日本文化や国内外の宗教文化（以下「神道文化・宗教文化」）に関わる授業を履修するために必要となる高等学校卒業相当の知識と文章表現のための技能を身につけているか。〈知識・技能〉

(AP2) 他者の考えを的確に理解し、自らの考えを理論的かつ簡潔にまとめ、ことばで正確に表現できる能力を有しているか。〈思考力・判断力・表現力〉

(AP3) 神道文化・宗教文化を幅広く学ぼうとする意欲を持っているか。また、神道文化・宗教文化の学びの成果を活かして、社会への貢献を目指す意志を持っているか。〈主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度〉

※具体的な入試制度と観点との関連は別表の通りです。

◎入学までに身に付けるべき教科・科目

神道文化学部に入学する学生には、入学後の教育内容との関係上、「国語」「地理歴史」「公民」「外国語（英語）」の学習を求めます。

※入学制度や選考方法に関する入試制度：別表は 44 ページを参照。

神道文化学部の入学制度

入学制度		選考方法		評価の観点 AP1	評価の観点 AP2	評価の観点 AP3	備考
推薦・特別選考入試	神道・宗教特別選考（I期・II期）	1次選考	調査書等	◎		○	神道文化学部の学修に必要な学力、特に、神社・宗教団体の担い手となる意志を持って学ぶ態度を有する受験生を選考します。 面接では態度を、小論文では思考力・表現力を主に問います。
			推薦書等			◎	
		2次選考	小論文	○	◎		
			面接		○	◎	
	神職養成機関（普通課程）特別選考	面接			○	◎	神社神職になる意志を持って学ぶ態度を有しているかどうかに主眼を置いた選考をします。
	公募型自己推薦（AO型）	1次選考	レポート	◎	○		神道文化学部での学修に必要な総合的な学力を持つ受験生を選考します。 面接・自己推薦書・志望理由書等では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。 1次選考のレポート・小論文では、主に知識や文章表現のための技能を問います。 2次選考など、試験会場で作成するレポート・小論文では、主に思考力・表現力を問います。 ＊協定校推薦入試は、本学と協定を結んだ高等学校（協定校）の生徒のみを対象とします。
			自己推薦書		○	◎	
			活動報告書・添付資料		○	◎	
		2次選考	レポート	○	◎		
			面接		○	◎	
	院友子弟等特別選考	1次選考	志望理由書		○	◎	
			レポート	◎	○		
		2次選考	レポート	○	◎		
			面接		○	◎	
	学士・一般編入学	小論文		○	◎		
		面接			○	◎	
	社会人特別選考（I期・II期）	小論文		○	◎		
		面接			○	◎	
	外国人留学生	日本語小論文		○			
		面接			○	◎	
	系列三高校推薦	調査書		◎		○	
		面接（指定された者のみ）			○	◎	
	協定校推薦*	調査書・志望理由書等		○			
		レポート			○		
		面接				○	
	指定校制度推薦	調査書		◎		○	
		志望理由書			○	◎	
		面接			○	◎	
	スポーツ推薦	調査書・志望理由書		○			
		小論文			○		
		面接				○	
一般入試	V方式（I期・II期）	教科		◎	○		神道文化学部での学修に必要な知識や表現力を持つ受験生を選考します。
	A日程（3教科型・得意科目重視型・学部学科特色型）						
	B日程						

※○は重視する観点、◎は特に重視する観点です。
※評価の観点は次の通りです。
（AP1）神道を中心とする日本文化や国内外の宗教文化（以下「神道文化・宗教文化」）に関わる授業を履修するために必要となる高等学校卒業相当の知識と文章表現のための技能を身につけているか。〈知識・技能〉
（AP2）他者の考えを的確に理解し、自らの考えを理論的かつ簡潔にまとめ、ことばで正確に表現できる能力を有しているか。〈思考力・判断力・表現力〉
（AP3）神道文化・宗教文化を幅広く学ぼうとする意欲を持っているか。また、神道文化・宗教文化の学びの成果を活かして、社会への貢献を目指す意志を持っているか。〈主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度〉

平成30年度入試（平成29・30年実施）		特色
出願期間	試験日	
【I期】8月30日（水）～9月6日（水） 【II期】2月5日（月）～2月9日（金）	（書類選考）	神道特別選考は神社神職の子女で、自身も神職として神明奉仕をする使命を持つ受験生を選考します。入学した場合は神職課程の履修が義務付けられています。 宗教特別選考は神道系教団を担う方々の子女で、自身も教団を継承する使命を持つ受験生を選考します。 II期はフレックスAのみの募集です。
	【I期】9月24日（日） 【II期】2月26日（月）	
8月30日（水）～9月6日（水）	9月24日（日）	神職課程で資格を取得する意志を持つ、全国の神職養成機関出身者を選考します。フレックスAのみの募集です。
9月27日（水）～10月4日（水）	（書類選考）	神道文化学部の学びへの興味・関心と修学意欲を高く評価します。次のいずれかを学びたいことが出願要件です。 ①古代の神道史・神社の学修・研究 ②近世・近代の神道思想や制度の学修・研究 ③祭式・神社実務の学修・研究 ④宗教・宗教文化の学修・研究 ⑤比較宗教文化・国際化の学修・研究 ⑥現代社会と宗教、宗教理論の学修・研究
	11月12日（日）	
8月30日（水）～9月6日（水）	（書類選考）	院友会の会員の親族で、神道文化学部を第1志望とする受験生を選考します。
10月10日（火）～10月16日（月）	11月12日（日）	
10月10日（火）～10月16日（月）	11月12日（日）	他大学や短大卒業（専門学校は除く）の受験生を選考します。
【I期】10月10日（火）～10月16日（月） 【II期】2月5日（月）～2月9日（金）	【I期】11月12日（日） 【II期】2月26日（月）	社会人（就業経験不問）の受験生を選考します。
10月10日（火）～10月16日（月） 【窓口：10月17日（火）】	11月26日（日）	外国籍で所定の資格を有する受験生を選考します（日本の高校を卒業した学生は出願できません）。
11月6日（月）～11月10日（金）	11月26日（日）	本学の系列にある高校（國學院高等学校・國學院久我山高等学校・國學院栃木高等学校）に在学し、神道文化・宗教文化を進んで学ぶ意欲を持つ受験生を選考します。
11月6日（月）～11月10日（金）	11月26日（日）	本学と協定を締結している高校に在学し、神道文化・宗教文化を進んで学ぶ意欲を持つ受験生を選考します。
11月1日（水）～11月6日（月）	11月26日（日）	本学が指定する高校に在学し、神道文化・宗教文化を進んで学ぶ意欲を持つ受験生を選考します。
11月1日（水）～11月6日（月）	11月23日（木）	スポーツ競技で秀でた技量を持ち、神道文化学部の学びに関心を持つ受験生を選考します。
【I期】1月4日（木）～1月12日（金） 【II期】1月4日（木）～3月3日（土）	1月13日（土）・14日（日）	大学入試センター試験を利用する入試です。神道文化学部は、I期が外国語と国語が必須で、地理歴史・公民・数学のうち高得点の1科目を選択します。II期はI期の科目のうち、高得点の2科目を選択します。
1月4日（木）～1月19日（金）	【3教科型】2月2日（金） 【得意科目重視型】2月3日（土） 【学部学科特色型】4日（日）	外国語・選択科目（日本史、世界史、政治・経済、数学）・国語の3科目による入試です。得意科目重視型は、3科目の中で最高成績の科目を高く評価し、学部学科特色型は、国語と成績上位の他の1科目で選考します。
1月4日（木）～2月19日（月）	2月26日（月）	外国語と国語の2科目による入試です。

※詳細な出願資格や入試日程など、入学制度の詳細は必ず試験要項を入手して下さい。
※入学制度の詳細は、総合企画部入学課（03-5466-0141）にお問い合わせ下さい。

オープンキャンパス

渋谷キャンパスで開催（神道文化学部）

平成29年	5月14日（日）　6月25日（日）　8月4日（金）・5日（土） 8月27日（日）　10月29日（日）

※このほか、平成30年2月に実施します。

「神道文化」を体験したい

舞楽体験

装束着装体験

神殿参拝・おみくじ引き

入試対策法（AO・神道宗教特選）を知りたい

説明会

キャンパスの雰囲気を知りたい

キャンパスツアー

授業の様子を知りたい

模擬授業

学生生活・就職（奉職）など、いろいろ聞きたい

相談ブース（教職員・在学生）

※入試説明会や模擬授業の内容は、日程によって異なります。詳細は大学ウェブページでご確認ください。

こくぴょん

「こくぴょん」は國學院大學の公式キャラクターです。
神道文化学部のこくぴょんは舞楽装束に身を包み、伝統文化を重んじる
神道文化学部のイメージとメッセージを体現しています。

神道文化学部ホームページ・Facebook

神道文化学部では、ホームページとFacebookの公式アカウントを開設しています。
学部の行事やイベントの案内をはじめ、大学生活について、授業の様子や在学生・卒業生への
インタビューなど、神道文化学部を身近に感じてもらえる情報を発信しています。

「神道文化学部」で検索！

平成29年度
國學院大學
神道文化学部
神道文化学科
GUIDE BOOK

平成29年(2017)4月1日 発行

編　　集　國學院大學神道文化学部教務委員会
編集担当　齊藤智朗　加瀬直弥
編集協力　吉永博彰　松本昌子

発 行 者　國學院大學神道文化学部
学部長　武田秀章
〒150-8440　東京都渋谷区東四丁目10番28号

印 刷 所　株式会社 石田大成社

写真撮影(表紙・裏表紙)　ヘィヴンズ ノルマン
(本文)　神道文化学部教員・学生有志